

コミュニケーション学 研究法

メディア教育研究法



人的資源管理



音楽・情報・脳

放送大学
大学院案内
2024

THE OPEN UNIVERSITY OF JAPAN

OUJ

生涯学習研究法

地球を
読み解く

化学研究法



臨床心理学特論

異文化との出会い

放送大学

修士・博士の学位取得を目指す方へ…

2024年度

放送大学大学院案内

CONTENTS

01 ▶ 放送大学大学院の特色・沿革

02 ▶ 学長メッセージ

社会人が学ぶ修士課程・生涯学習と最高学位

03 ▶ 修士課程教育の基本方針

04 ▶ 「修士」学位取得までのプロセス

08 ▶ 博士後期課程教育の基本方針

09 ▶ 「博士」学位取得までのプロセス

13 ▶ プログラム紹介

14 ■ 生活健康科学プログラム 修士 博士後期

16 ■ 人間発達科学プログラム 修士

18 ■ 臨床心理学プログラム 修士

20 ■ 人間科学プログラム 博士後期

22 ■ 社会経営科学プログラム 修士 博士後期

24 ■ 人文学プログラム 修士 博士後期

26 ■ 情報学プログラム 修士 博士後期

29 ■ 自然環境科学プログラム 修士 / 自然科学プログラム 博士後期

31 ▶ よくある質問

32 ▶ サービス・施設／各種データ

募集人数・前年度選考結果、入学者選考過去問題の閲覧、出願期間、学費・奨学金

33 ▶ 1科目から学べる 修士選科生・修士科目生



この冊子は、修士全科生・博士全科生への出願を検討されている方向けに制作した冊子です。

修士課程の授業を短期で受講できる修士選科生・修士科目生への出願を検討されている方は、「修士選科生・科目生案内」をご覧ください。

質

の高い学位論文を 書き上げられる環境

放送大学大学院修士課程は2001年に発足し、6,000名以上、博士後期課程は2014年に発足し、これまでに40名以上の修了生を輩出しています。普段から授業番組の作成や印刷教材の執筆など精力的に教育活動へ取り組んでいる専任教員が研究指導を行います。特に修士課程では半年ごとにレポートを提出する仕組みがあり、忙しい社会人の方でも論文を書き上げられる環境が整っています。

人

生経験豊かな 学生同士が触発しあう

レベルの高い研究論文には、テーマの深耕に加えて、今までにない新しい視点や発想が必ず存在します。本大学院には年齢は20代から90代まで、地域は北海道から沖縄まで、通常の大学院では例をみない実に多様な学生が学んでいます。職業も会社員、公務員、教員、自営業、看護師など多岐にわたり、異なる人生経験や価値観を持つ仲間がお互いを刺激しあうことで、研究成果に相乗効果が生まれています。

放送大学大学院の特色

本

当に学びたいテーマだから、 多彩な研究が生まれる

他の多くの大学院と異なり、放送大学大学院は、まず各個人の学びたいテーマをヒアリングし、およそ80名の教員陣の中から適切な指導ができる教員の配置に努めます。そして個別指導を進めながら具体的にテーマを絞り込んでいきます。また、研究分野の多様性と広域性も本大学院の特徴の1つで、既定の枠組みに捉われず、自由にジャンルを横断した研究活動ができます。

研

究を持続するための フォロー体制の充実

本大学院では、研究を持続できることが重要と考え、各地でのフォロー体制の充実にも力を入れています。例えば、全ての都道府県に設置している学習センターは、皆さんのキャンパスとして全国どこでも学べるだけでなく、転勤などの事情にも対応できます。

放送授業を見逃した場合や繰り返して学習したい時に、自分の都合に合わせてインターネットや学習センターの設備で再視聴できるほか、Web会議システムなどのメディア等を用いた研究指導を利用して、多忙な仕事や育児などと両立させた修了生も数多くいます。さらに学部科目も含めてほぼ全ての放送授業をインターネットで視聴でき、自身の研究分野に関連する科目を自習することもできます。一般の大学院にはないフォロー体制を最大限に活用して、研究成果を上げてください。

沿革

1981年 6月	放送大学学園法(昭和56年法律第80号)公布・施行
1981年 7月	放送大学学園設立
1983年 4月	放送大学学園により放送大学設置
1985年 4月	放送大学学生受入れ開始 放送(テレビおよびFMラジオ)による授業開始
1989年 4月	第1回卒業式の挙行
1998年 1月	CSデジタル放送による全国放送開始
1998年 10月	全国の学習センターで全科履修生受入れ開始
2001年 4月	放送大学大学院修士課程設置
2002年 4月	放送大学大学院修士課程学生受入れ開始
2003年 10月	放送大学学園法(平成14年法律第156号)の 施行に伴い特殊法人から特別な学校法人に移行

2004年 3月	最初の大学院修士課程学位記の授与
2006年 12月	地上デジタル放送開始(関東エリア)
2010年 5月	学生サポートセンター設置
2011年 10月	BSテレビ・ラジオ放送開始
2014年 4月	放送大学大学院博士後期課程設置
2014年 10月	放送大学大学院博士後期課程学生受入れ開始
2015年 4月	オンライン授業配信開始
2017年 9月	最初の大学院博士後期課程学位記の授与
2018年 9月	地上デジタル放送およびFMラジオ放送終了(関東エリア)
2018年 10月	BSマルチチャンネル放送開始
2020年 5月	インターネット配信公開講座 配信開始
2022年 7月	IBT(Internet-Based Testing)による単位認定試験の 試行開始

社会人が学ぶ修士課程

1983年4月に開校した放送大学は、その18年後の2001年4月、学部教育の上部に大学院を創設し、翌年より修士課程学生の受け入れを開始しました。一般的な総合大学大学院の修士課程と異なり、1研究科(文化科学研究科)1専攻(文化科学専攻)というシンプルな形態をとっていますが、カバーする学問領域は非常に広く、衣食住に関する生活科学、医学、心理学、教育学、法学や経済学などの社会科学、産業・技術、工学、哲学や歴史、文学、言語などの人文学、数学、物理学・化学、天文・地学、生物学そして情報学と、大規模総合大学の学部構成にほぼ匹敵する多様な分野におよんでいます。その一方で、研究指導を担当する教員の組織は一つの研究科でまわっているため、学問領域間の垣根が低く、学際的・複合的な研究テーマに対応した指導も容易です。こうした本学大学院の研究指導体制は、日常的社会生活、職業生活上の複合的な問題をテーマとして学修と研究を進め、修士号(マスター)の取得をめざす方々に最適なシステムだと自負しています。

それだけではなく。修士号取得を目指す修士全科生には論文執筆のための研究指導が必修ですが、それ以外の修了要件の単位はすべて放送科目またはオンライン科目で取得できるのです。放送授業に関しては、2022年度から単位認定試験をインターネットにより自宅から受験できるIBT(Internet-Based Testing)方式に切り替えたことにより、社会人の修士号取得に向けた科目履修はますます利便性が高まりました。現在、試験の厳格性・公正性をさらに高めるための方策についても検討しています。また、研究論文の完成に全力を傾け2年間で修了したいという場合には、修士全科生として入学する前に修士選科生(1年間)あるいは修士科目生(1学期間)として必要な科目の履修を済ませておくこともできます。一方で、論文執筆に2年を超えてじっくり取り組むことも可能です。そのように、論文完成・課程修了までの道のりは、その時々状況や環境に合わせて自由に選ぶことができます。職場で、家庭で、そして地域で仕事に携わる社会人にとって最適な修士課程であると、これについても自負しております。



生涯学習と最高学位

さて、本学大学院には、修士課程の上部に博士後期課程も設けられています。今から10年ほど前、生涯学習機関と社会的に認知されてきた本学に博士後期課程の構想が持ち上がりましたが、当初、学内外から「生涯学習と最高学位は互いに異質で相容れないものだ」という批判の声が寄せられました。そのうえ、既存の大学院での博士号(ドクター)取得者の就職難やオーバードクターの問題が指摘されていた当時、限定的な定員とはいえ、本学で新たな博士後期課程を創設することは、無謀な「冒険」と見られてもいました。

しかし、大学を取り巻く当時の現実を目を転じると、未曾有の自然災害とそれによって引き起こされた先例のない環境問題、一國経済主義の終焉とグローバル化の進展、それによってもたらされた産業の空洞化及び人々の就労構造の著しい変化、極度に逼迫した公共財政、それらの根底にある少子高齢化といびつな人口構成、次々と現れる新たな感染症、それらの直接的な帰結としての医療と社会保障の問題、拡大しつつある社会格差、国際的な軋轢・紛争等々、日本社会は、世界は、そして自然環境はまさに大きな危機と変化のただ中にあると思われました。

そうした状況の下で、日本社会では、伝統的大学の内部で養成される既存タイプのエリートではなく、現実には地域や家庭、職場などで生活し働く人々、つまり社会人が、自ら直面する諸問題をさまざまな連携と協働を通して理解し、解決していく仕組み作りが強く要請されていました。同時に、そうした社会人を、高度な調査力・分析力・研究力を持つ研究者として育成する高度な教育機会も求められていました。それは、伝統的な通学制の大学院の不得意とするところでした。本学の博士後期課程に対する期待は、まさにそうした背景のもとで高まってきたのです。放送大学は、地域や職場などの課題解決をリードする高度な社会人研究者の育成をめざして、日本では先例のない教養教育に基礎を置く生涯学習型の博士後期課程を開設し、2014年10月には高倍率の入試を通過した待望の第一期生10名を受け入れました。

本学大学院博士後期課程では、これまで100名以上の入学者を迎え入れ、計45名の学位取得者を送り出しました。その多くが大学等の教育機関や研究機関、医療機関、官公庁、企業などで専門的・管理的な仕事に就いている有職者です。学位取得後に新たに研究教育職に就いたケース、職場内で上位の職位に昇任したケース、また在野の研究者として著作を刊行したケースもあります。学位取得とそのための学修が彼らの仕事の質をいっそう高めていることは疑いのないところです。現在、本学の博士後期課程では、専任教員の親身の指導を受けながら、論文完成そして学位取得を目指しています。

放送大学長 岩永 雅也

Iwanaga Masaya profile

博士(学術)(筑波大学)、教育学修士(東京大学)。
専門は、教育社会学の視点と方法に基づく現代的教育課題の分析。
DXの進展と社会変化に呼応した放送大学の教育の改革を目指している。

放送大学大学院

修士課程

▶ 教育の目的

生涯学習の実践を通して、
高度な総合的教養に裏打ちされた専門的学識及び知的技能を修得し、
文化の進展並びに地域社会及び職場等に貢献できる人材の育成を目的とします。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

■ 資質・能力等の養成

専攻する専門分野に加えて、他の分野における専門知識や技能を修得し、深く広い教養を身につけることにより、学術的な研究遂行能力、高度な職業的知識や技能に基づく総合的判断力及び様々な課題に対して自らの力で解決する能動的探究力を涵養します。これらの資質・能力により、地域社会や職場等、現代社会における様々な課題を自らの力で解決し、それぞれの地域社会や職場等において活躍する実践的人材を養成します。

■ 修了に必要な学習成果（条件）

授業科目と研究指導科目を合わせて30単位（臨床心理学プログラムは34単位）以上修得し、修士論文等の審査及び試験に合格することが課程修了・学位取得の要件です。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成の方針）

■ 教育課程編成

修士課程においては、専門知識を修得するための授業科目と研究能力を養う研究指導を提供します。授業科目は深く広い教養の涵養を図るため、所属するプログラムの科目と他プログラムの推奨科目及び関連科目で構成しています。また、学士課程の教育課程との有機的接続を念頭に置き、修士課程に同分野における発展系の科目も開設します。研究指導は、主として論文執筆や研究方法論、学術的研究手法等の実践的コースワークを重視し、修士論文等を段階的・計画的に作成できるよう、修士課程の2年間を通じて指導します。

■ 教育内容・方法

授業科目には、BSテレビ・BSラジオによる放送授業の他、インターネットを活用したオンライン授業を提供します。研究指導では、対面やWeb会議

システムなどにより個別ないし数人に対する指導を行います。また、各学期の後半では、研究指導教員が課題を出し、それに対する各人のレポートへのフィードバックを行う課題研究の機会、あるいは集中面接授業の機会を設けています。このようにして、いつでもどこでも学べるという柔軟性を持ちつつ、遠方に在住している学生に対しても個別指導の機会を提供します。

■ 学習成果の評価方法

授業科目は、単位認定試験の結果により成績評価を行います。単位認定試験を課さないオンライン授業は、各回における形成的評価と、最終回後に行う達成度評価の結果を総合的に判断して厳格な成績評価を行います。研究指導は、修士論文等に対する審査と口頭試問の結果を総合的に判断して、修士の学位に相応しいか否かの成績評価を行います。

アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

■ 求める人材像

地域社会・職場等における豊かな経験を持つ社会人や、専門領域における基礎知識を有し、学問及びその実践への応用に対する意欲と広い問題意識を持って、生涯にわたってあらゆる機会、場所において学び、その成果を生かしていくことができる学習者を求めます。

■ 入学者選抜の方法

入学者選抜は、年に1回、第1次選考と第2次選考に分けて実施します。第1次選考を実施後、第1次選考合格者に対して第2次選考を実施し、最終合格者を決定します。第1次選考は英語読解力（一部のプログラム）及び専門的知識や思考力を問う筆記試験、第2次選考は提出書類を基にした面接試問により行います。

■ 求める学習成果

学士課程卒業など、一定の要件を満たすことが条件です。

修士課程

「修士」学位取得までのプロセス

大学を卒業した方(卒業見込みを含む)または、大学を卒業した方と同等以上の学力があると本学の事前審査により認めた方なら出願できます。

修士全科生は7つのプログラム(p.13～30参照)から1つを選んで所属します。2年以上在学して、所定の単位を修得し、修士論文の審査と口頭試問に合格すると修了となり、修士(学術)の学位が授与されます(最長で5年間に在学できます)。

▶ 入学時期と入学試験

入学の時期は毎年1回4月です。前年に入学者を選考、募集人員は500名です。

入学試験は、第1次選考(筆記試験、原則として所属を希望する学習センターで実施)の合格者に対して、第2次選考(面接試問)を実施し、合格者を決定します。

※2024年4月入学の修士全科生の出願期間は2023年8月中旬～8月下旬の予定です。
詳しくは2023年6月中旬配布開始予定の「放送大学大学院修士全科生学生募集要項」を確認してください。



▶ 修了要件

修士の学位取得には次の条件をいずれも満たす必要があります。

1. 2年以上在学すること。(在学年限*1は5年)
2. 右表の単位数以上を修得すること。
3. 修士論文の審査及び口頭試問に合格すること。

*1 在学年限とは最長で在籍できる期間のことです。

*2 所属プログラム・他プログラム問わず大学院で開講している放送授業またはオンライン授業で修得すべき単位数を指します。

※放送大学大学院修士選科生・修士科目生として修得した単位は原則、修士全科生の修了要件単位として認められます。

■ 修士課程修了のために必要な単位数

プログラム名	修得すべき最低単位数(合計)	内訳		
		研究指導	所属プログラムから修得すべき最低単位数	左記以外の単位*2
生活健康科学 人間発達科学 社会経営科学 人文学 情報学 自然環境科学	30単位	8単位	8単位	14単位
臨床心理学	34単位	8単位	必修科目16単位 + 選択必修科目5区分から2単位ずつ 計10単位 = 計26単位	0単位

修士課程の3つの学生種

修士課程には、修士全科生の他、修士選科生・修士科目生といった学生種があります。

修士の学位取得を目指すなら修士全科生、興味ある科目や資格取得に必要な科目のみを1科目から学びたいなら修士選科生・修士科目生を選ぶことになります。

修士選科生・修士科目生として入学し、修士の学位取得に必要な放送授業・オンライン授業科目の単位を事前に修得した上で、修士全科生に入学し、修士論文の作成に集中することもできます。

大学院の授業に慣れ、より目的意識が芽生えたところで、修士全科生に入学することも可能です。これらの場合、原則として修得した単位は本学大学院修士全科生の修了要件単位として認められます。

修士取得を目指す
今すぐトライ

所定の単位修得の後、
修士論文の作成に集中する
※ただし、修士全科生に入学するには
入学試験に合格する必要があります。

※修士全科生の次の募集は2024年4月入学生で、
出願期間は2023年8月中旬～下旬の予定です。

1科目から学ぶ
自分のテーマを究める
資格取得に必要な単位のみ修得する

修士全科生
2年以上在学、
いずれかのプログラムに所属

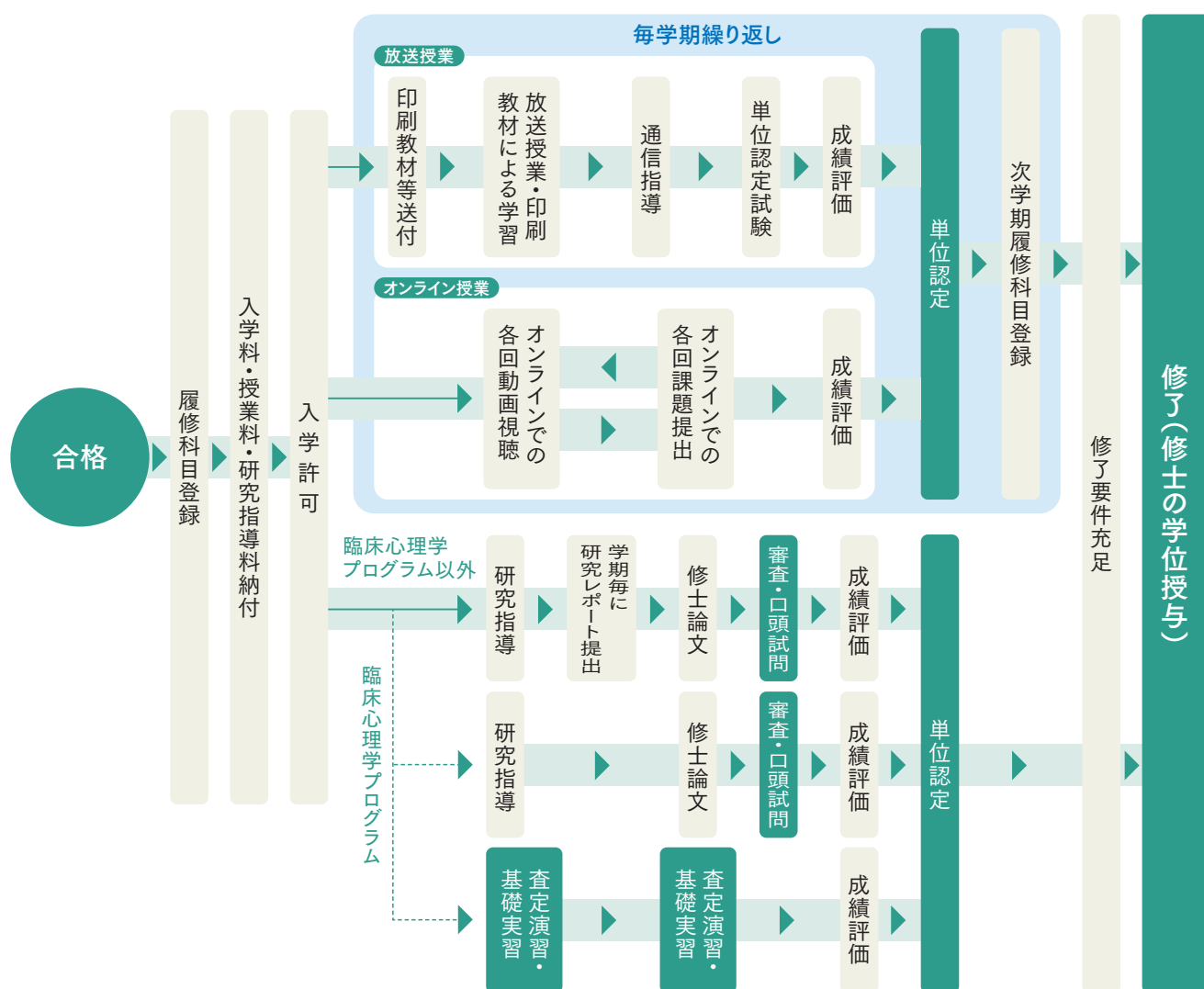
年1回入試有、4月入学のみ

修士選科生
1年間に在学(2学期間)
修士科目生
6カ月間に在学(1学期間)

詳細は
P33

満18歳以上であればどなたでも入学可
4月・10月入学

▶ 履修科目登録から学位取得まで



※第2年次2学期は論文の作成が中心になるため、修了に必要な放送授業・オンライン授業科目の単位は、第2年次1学期までに修得するよう努めてください。
 ※臨床心理学プログラムのみ、履修する演習・実習の詳細についてはp.19をご覧ください。

▶ 授業スタイル

■ 研究指導・面接授業

修士論文執筆に向け、指導教員から指導を受けます。詳細は次ページをご覧ください。
 臨床心理プログラムについては、演習・実習(面接授業)があります。

■ 放送授業

科目によりBSテレビ放送※1、BSラジオ放送に分かれます。BSテレビ、ラジオ放送は、週1回(一部は週2回)、45分の放送が15週間放送され、学期ごと(6カ月間)で完結します。また、原則全てをインターネット配信します。

印刷教材	放送授業が行われる科目には、全て印刷教材(テキスト)が用意されます。 放送授業を視聴すること、および印刷教材による学習を併せて進めてください。 印刷教材の代金は、授業料の中に含まれています。
通信指導	各学期の途中に1度、前半の一定範囲で出題されます。 Webまたは郵送で解答し合格すると単位認定試験の受験資格が得られます(一部、Web限定科目あり)。
単位認定試験	各学期の放送授業が終了した後、各科目についてWeb上で試験を実施します。※2 合格した学生には、単位の認定を行います。なお、翌学期に限り再試験を受験できます(学籍のある場合に限る)。

※1 テレビ科目の中には、インターネット配信限定で視聴する科目があります。授業内容は第1学期(4月～9月)、第2学期(10月～3月)ともに同じです。

※2 ご自宅等にインターネット環境がない、またはパソコンの操作が困難等のご事情があり、Web受験が困難な方は入学後に申請を行うことで、単位認定試験を学習センター等で受験することができます。

■ オンライン授業

全ての学習をインターネットで行います。科目ごとに決められた期間に課題を提出することで成績評価を行います。
 放送授業とは違い通信指導や単位認定試験はありません。

▶ 研究指導の体制

本学大学院修士課程を修了するには、修士論文の作成が必須要件です。
論文の完成までには2年間にわたり研究指導が行われます。
研究指導は、対面またはメディア（Web会議システム等）を利用して実施します。

■ 研究指導担当教員

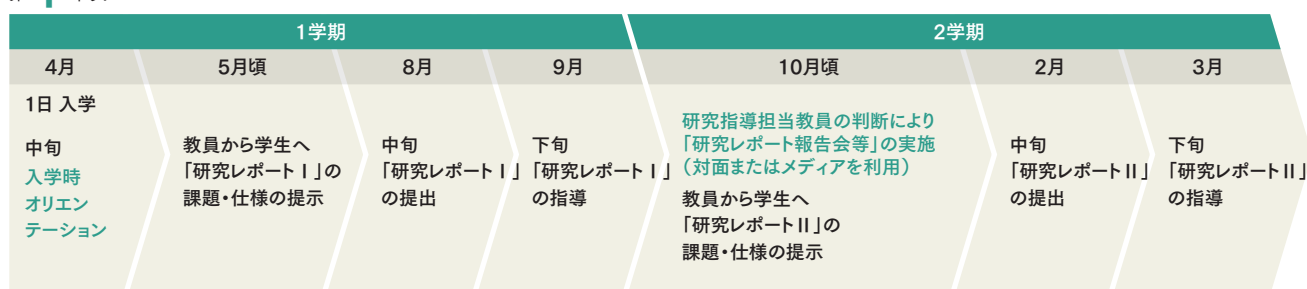
修士全科生は、「研究指導担当教員」から、研究指導（修士論文を作成するための指導）を受けることになります。
「研究指導担当教員」は、出願時の研究計画書等により、研究指導を実施する上で、
本学が最適と判断した専任教員または客員教員を充てることとしています。
専任教員の研究分野や所属学会等の詳細の確認方法は、次ページをご覧ください。

▶ スケジュール

■ 生活健康科学、人間発達科学、社会経営科学、人文学、情報学、自然環境科学プログラムの場合

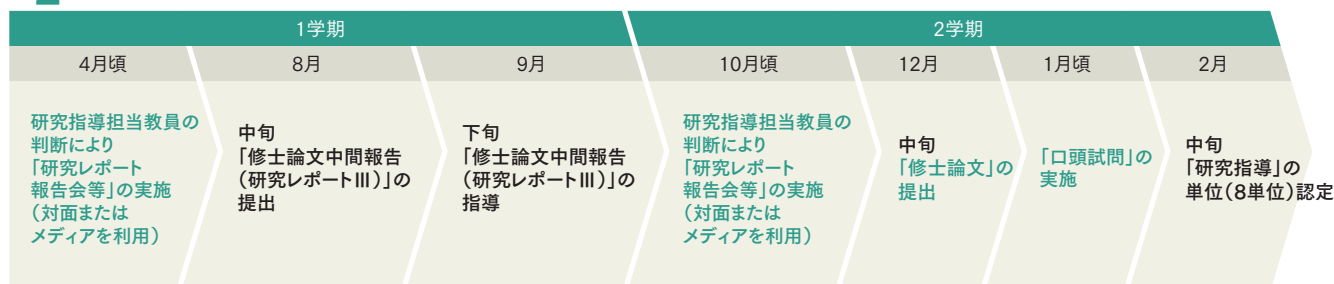
▶ 研究指導スケジュール（年度により多少異なります。）

第1年次



第2年次

月1回程度、研究指導を実施します。指導は、対面またはメディアを利用して実施します。

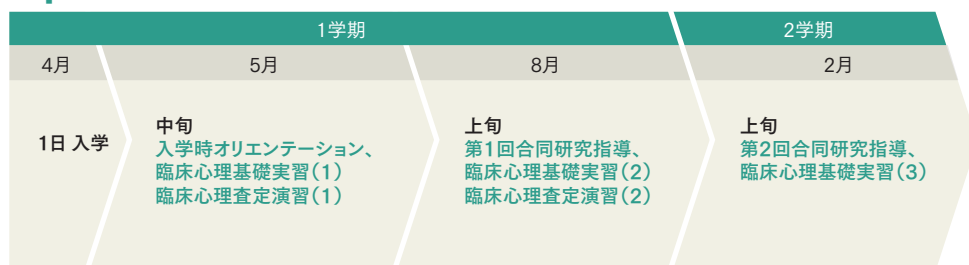


月1回程度、研究指導を実施します。指導は、対面またはメディアを利用して実施します。

■ 臨床心理学プログラムの場合

▶ 研究指導および演習・実習のスケジュール（年度により多少異なります。）

第1年次



研究指導担当教員の判断により、月1回程度、原則として個別あるいはゼミ形式による対面指導を実施します。状況に応じて、メディアによる補完的指導もあります。

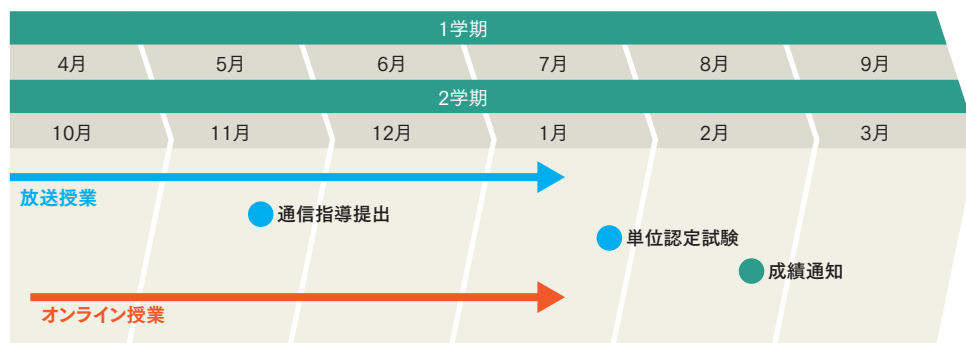
第2年次



研究指導担当教員の判断により、月1回程度、原則として個別あるいはゼミ形式による対面指導を実施します。状況に応じて、メディアによる補完的指導もあります。

臨床心理学プログラム所属の修士全科生については、実習および演習（面接授業）があり、実践的な力を身につけられるようカリキュラムが組んであります。

■放送授業・オンライン授業のスケジュール【全プログラム共通】



※オンライン授業には通信指導・単位認定試験はありません。

専任教員の研究分野や指導可能なテーマ等の詳細は、
下記ウェブサイトで確認いただけます。
プログラムの選択や研究計画を検討する際に参考にしてください。

▶ 指導領域や指導方法、入学者へ求めること等(本学ウェブサイト)

<https://www.ouj.ac.jp/gakuin/about/>

※「研究計画の作成」をクリックしてください。



▶ 研究分野や所属学会等の詳細(researchmap研究者情報)

<https://researchmap.jp/researchers>



修士論文の閲覧方法

本学学生・卒業生・修了生・教職員は、本部附属図書館およびシステムWAKABAにて、2020年度以降の修了生の修士論文のうち、執筆者および研究指導責任者が閲覧を許諾しているものを、閲覧することができます。詳細は本学ウェブサイトをご覧ください。

<https://www.ouj.ac.jp/gakuin/about/thesis/>



また、2019年度修了生までの学生論文集として、『Open Forum』(放送大学大学院教育研究成果報告)を刊行しています。購入方法は本学ウェブサイトを確認してください。

『Open Forum』は第17号をもって冊子体での刊行を終了し、2020年度修了生分からは「オープンジャーナル」として、『放送大学機関リポジトリManapio(まなびお)』に掲載をしています。



博士後期課程

▶ 教育の目的

生涯学習の実践を通して、学術の理論及び応用の深奥を極め、高度な専門性が求められる社会的役割を担うための深い学識及び卓越した能力を修得し、文化の進展並びに地域社会及び職場等に貢献できる主導的人材の養成を目的とします。

ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)

■ 資質・能力等の養成

主に専攻する学問分野(メジャー研究分野)に加えて、関連する学問分野(マイナー研究分野)など、他分野における高度な専門的知識や技能を修得し、学術の理論及び応用の深奥を極めることにより、物事を俯瞰的に観察する能力と解決が困難な实际的課題に対応できる創造的実践力が身につくよう指導します。

これらの資質・能力により、社会に知を発信し、地域社会や職場等における困難な課題を自らの力で解決し、それぞれの地域社会や職場等の未来を切り拓く知的リーダーとして活躍する人材を養成します。

■ 課程修了に必要な学習成果(条件)

授業科目と研究指導科目を合わせて17単位以上修得し、博士予備論文及び博士論文の審査及び試験に合格することが課程修了・学位取得の要件です。

カリキュラム・ポリシー(教育課程編成の方針)

■ 教育課程編成

博士後期課程においては、高度な専門知識や精緻な研究方法を修得するための基盤研究科目と高い研究能力を養う特定研究科目を提供します。基盤研究科目では、学術理論及び高度な研究方法を多角的視点から習得するため、メジャー研究分野の科目とマイナー研究分野の科目で構成しています。特定研究科目では、博士論文を段階的・計画的に作成できるよう、3年間の対面指導を行い、プログラムの枠を超えて、専攻するメジャー研究分野のみならず、マイナー研究分野も加えた専任教員が指導に当たります。定期的開催される研究指導では、論文執筆に関する指導に加え、研究方法論も指導します。

■ 教育内容・方法

基盤研究科目のうち、メジャー研究分野関連教員のオムニバス講義である特論では、対面により授業を行い、メジャー研究分野及びマイナー研究分野の研究法では、対面やWeb会議システムなどにより指導を行います。また、特定研究科目では、定期的に課題を出し、対面により指導します。このようにして、通信教育を基本とする本学においても、密度の高い授業や研究指導を実施します。

■ 学習成果の評価方法

基盤研究科目は、授業における学習状況と提出されたレポートを基に成績評価を行います。特定研究科目は、博士論文に対する審査と口頭試問の結果を総合的に判断して、博士の学位に相応しいか否かの成績評価を行います。

アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

■ 求める人材像

地域社会・職場等において直面する課題を解決するための実践に取り組み、豊かな経験知・実践知を有する社会人や、学問知の獲得に強い意志と意欲を持ち、より高度な教養知の修得を目指し、生涯にわたってあらゆる機会、場所において学び、その成果を生かしていくことができる学習者を求めます。

■ 入学者選抜の方法

入学者選抜は、年に1回、第1次選考と第2次選考に分けて実施します。第1次選考を実施後、第1次選考合格者に対して第2次選考を実施し、最終合格者を決定します。第1次選考は英語読解力及び高度な専門的知識や思考力を問う筆記試験、第2次選考は提出書類を基にした面接試験により行います。

■ 求める学習成果

修士課程修了など、一定の要件を満たすことが条件です。

博士後期課程 「博士」学位取得までのプロセス

大学院修士課程を修了した方(修了見込みを含む)または、大学院修士課程を修了した方と同等以上の学力があると本学の事前審査により認めた方なら出願できます。博士全科生は6つのプログラム(p.13～30参照)から1つを選んで所属します。3年以上在学して、所定の単位を修得し、博士論文の審査と口頭試問に合格すると修了となり、博士(学術)の学位が授与されます(最長で8年間在学できます)。

▶ 入学時期と入学試験

入学の時期は、毎年1回4月、募集人員は15名です。入学試験は、第1次選考(筆記試験、原則として所属を希望する学習センターで実施)の合格者に対して、第2次選考(面接試問)を実施し、合格者を決定します。

※2024年4月入学の博士全科生の出願期間は2023年8月中旬～下旬の予定です。
詳しくは「放送大学大学院博士全科生学生募集要項」をご覧ください。



▶ 修了要件

博士の学位取得には次の条件をいずれも満たす必要があります。

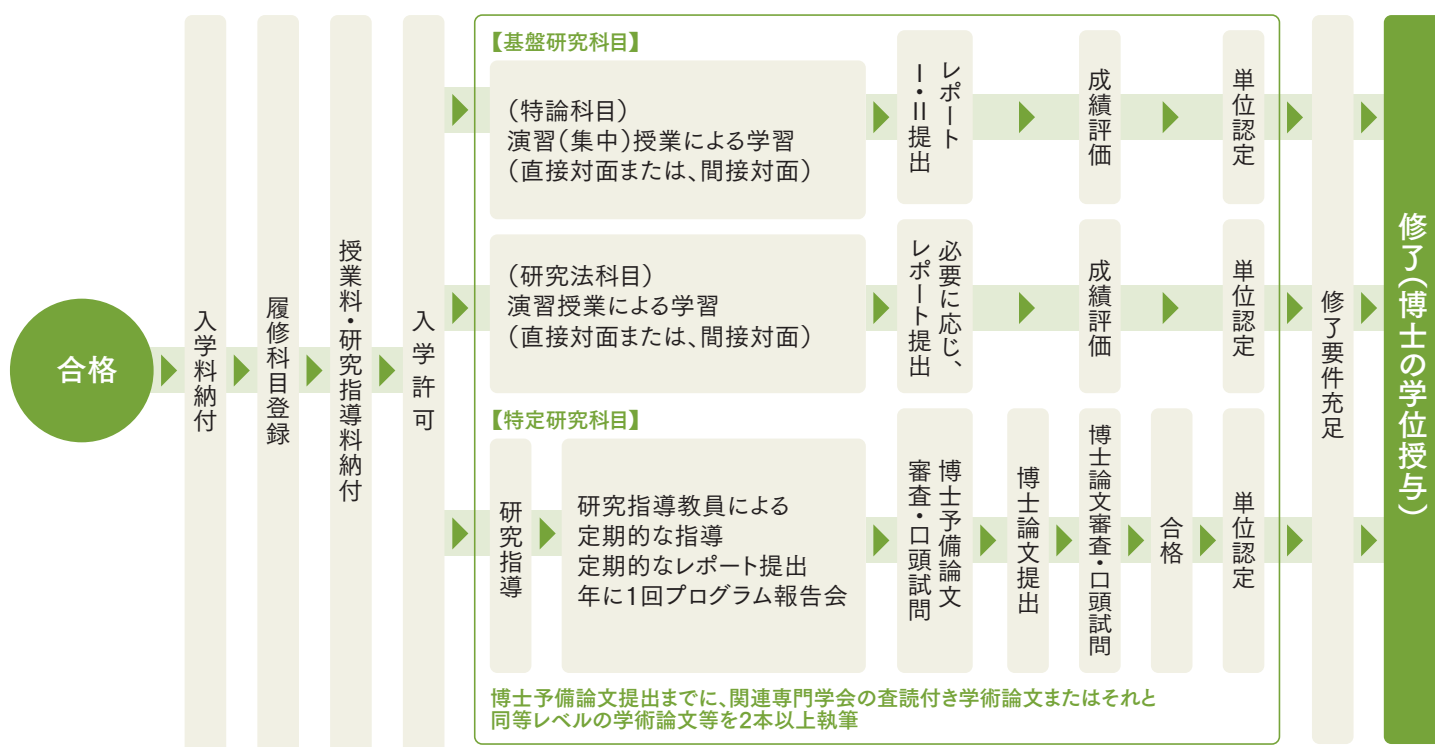
1. 3年以上在学すること。(在学年限^{*1}は8年)
2. 右表の単位数以上を修得すること。
3. 博士論文の審査及び口頭試問に合格すること。

*1 在学年限とは最長で在籍できる期間のことです。

■ 博士後期課程のために必要な単位数

全プログラム共通		内訳	
		所属プログラムから 修得すべき最低単位数	所属プログラム以外の プログラムから修得する 最低単位数
科目区分	特論科目	2単位	—
	研究法科目	2単位	1単位
	特定研究科目	12単位	—
		17単位	

▶ 履修科目登録から学位取得まで



▶ カリキュラム構成

本学博士後期課程の履修カリキュラムにおいては、院生の研究テーマに最も深く関わる「メジャー研究分野」(以下、「メジャー分野」という)と、その研究テーマの内容をさらに豊かにする「マイナー研究分野」(以下、「マイナー分野」という)の2つの研究分野とともに必修とします。

メジャー分野は博士論文のテーマに直接関わる学問分野であり、マイナー分野は博士論文のテーマに直接は関わりませんが、研究を進め論文を執筆する上でその分野に関する考え方や知識、研究上のスキルなどが必要となる学問分野です。

社会人院生が高度な探究を行うためには、研究の基礎からの体系化と隣接分野との連携化を通して、実践と理論を結びつける複眼的な研究能力を開発育成することが肝要です。

メジャー分野の指導は、主としてその学問的専門性に関わる指導に責任を持ち、マイナー分野の指導は、学術的教養に関わる指導を行います。

本学博士後期課程の履修カリキュラムにおいて、「メジャー・マイナー」のシステムを採用するのは、博士後期課程での研究と論文執筆に関わって、不可避免的に求められる主要テーマ分野以外の重要な学修に関しても、指導体系の中に組み込み、多様でより深い学修を行うことを目指すためです。

「基盤研究」と「特定研究」の2つの研究指導方法によって、専門分野の研究能力の深化とともに俯瞰力と創造力を幅広く備え実践と理論を結びつけることのできる高度な社会人研究者を養成します。地域社会や職場、自然・生活環境等、あるいは人間そのものに生ずる実践的な課題に対して、高度な視点から研究を行う教育課程を編成します。

■ 基盤研究

基盤研究は、社会人・職業人として持つ経験や現場での知識・技能(経験知、実践知)を体系化・再構成し深化させて学問知を構築し、社会人研究者としての基盤的な研究方法・技術や研究論の修得・充実を図るためのものです。

各プログラムの基盤研究科目の中に、必修として、特論科目と研究法科目を開設します。

特 論

特論は、博士後期課程院生の研究がプログラム内の自分が所属する狭隘な研究領域の専門だけに閉塞することなく、自分が関係するプログラムの各研究領域における最新の研究動向や実践的・理論的課題等を学ぶことで、研究テーマや課題、方法を関係領域のより広い学術的・実践的な文脈の中で捉え直し、研究の課題や方法などを更に深化させたり再構築を図れるようにして、本学大学院博士後期課程の目的である「関連領域の学術水準を踏まえて発展させ俯瞰力を身につけた社会人研究者の養成」を目指します。

毎年度1学期に集中講義にて実施し、所属プログラムの教員によるオムニバス講義と共同討議という授業形態で行います。本部キャンパスにて直接対面指導を実施し、参加できない場合はWeb会議システム等にて間接対面指導を行います。

研究法

研究法は、博士論文で取り組もうとする研究課題に関係した先行研究や理論の検討、研究方法論などを学ぶ演習(ゼミ)形式の指導です。教員から定期的に作業課題が出され、提出されたレポートに基づく研究指導をWeb会議システムや電子メール等で行います。院生同士でのディスカッションが有効と思われる場合には対面でのゼミやWeb会議システムを利用した間接対面指導も行われます。

1年次2学期～2年次2学期のいずれかの学期において、主研究指導教員の担当するメジャー分野の研究法科目、副研究指導教員の担当するメジャー分野またはメジャー隣接分野の研究法科目、副研究指導教員の担当するマイナー分野の研究法科目の3科目を履修します(科目を開講するプログラムにより開講学期が異なります)。本部キャンパスおよび学習センター等における直接対面指導、Web会議システムによる間接対面指導および電子メール等による指導を行います。

■ 特定研究

特定研究では、博士論文の完成に向けて、1年次から3年次まで段階を踏んだ体系的な研究指導を行います。各年次で、定期的な課題の出題と対面指導を行います。課題に対するレポート提出は、単位修得のための必須要件となります。一方、定期的な対面指導は、研究指導教員の3名が協力して指導に当たることとし、原則として本部キャンパスまたは学習センターにおいて実施します。

▶ 研究指導の体制

■ 研究指導体制について

◎主研究指導教員1名(メジャー分野の教員1名)、副研究指導教員2名 (マイナー分野の教員1名およびメジャー分野またはメジャー隣接分野の教員1名)の研究指導体制で博士論文作成のための研究指導を行います。

■ 研究指導教員決定のプロセスについて

- ◎主研究指導教員については、願書の研究テーマや研究計画等をもとに、入学試験面接質問等により領域適合性等を確認し、合格者に対して本学が最適と判断した専任教員を充てることとしています。
専任教員の研究分野や所属学会等の詳細の確認方法は、次ページをご覧ください。
- ◎副研究指導教員については、入学後のオリエンテーションでの主研究指導教員との面談後、本学が最適と判断した専任教員を充てることとしています。

■ 主研究指導教員について

- ◎学生の研究テーマを指導するのに最も相応しい専門分野の教員がその任につき、研究指導における中心的役割を果たします。
- ◎学生が実施する研究の科学性・信頼性・妥当性を念頭に置き、研究の実施を指導しコーディネートする役割を担います。

■ 副研究指導教員について

- ◎主研究指導教員を補佐し、より多角的な視野から院生の研究と論文作成の助言と支援を行います。
- ◎1名には、学生のマイナー分野の教員を配置し、マイナー分野に関する指導により、学生の複眼的学識形成を助けます。
- ◎残る1名には、学生のメジャー分野またはその隣接分野の教員を配置し、研究の方向が狹隘なものとならないよう、より広い専門的視野から主研究指導教員の指導を補佐します。

▶ 研究の進め方

特定研究では、博士論文の柱となる研究を、メジャー分野、隣接専門分野およびマイナー分野の研究指導教員の下で進めます。博士論文の研究対象となるであろう事例研究や、フィールドワーク、実験・観察等に研究指導教員とともに取り組みます。この過程で、各々のテーマに基づく研究の遂行と博士論文作成を、学生のメジャー分野のプログラムに属する教員全員で指導・支援し、学際的な観点に立ってチェックする「プログラム報告会」を設け、研究と論文の内容・方法・水準のチェックを行います。個人あるいはグループ別の対面指導のみならず、在宅の学生に対し、Web会議システム、電子メール等、各種の情報通信手段を用いて研究テーマあるいは教員

や学生の生活実態に合わせて個別に指導する体制を整えます。さらに、全ての都道府県に設置している学習センター所長およびスタッフは、学生がこうした指導を受け、研究を円滑に遂行できる環境を整備することによって、通信教育にありがちな学修の孤独化を防ぎます。

効果的・効率的な研究指導を行うため、上記のようなWeb会議システム、電子メール等の情報通信手段を十分に活用し学生と教員間でやりとりできる場を設けますが、同時に直接対面での指導をより重視し、必要に応じて対面による指導と質疑応答をより密に行えるようにします。

▶ スケジュール

基盤研究(「特論」と「研究法」)		特定研究(「研究指導」)
所属プログラムの「特論」の履修	第1年次 (1学期)	●事例研究(フィールドワーク、文献調査、 資料調査、アクションリサーチなど) ●プログラム報告会
	第1年次 (2学期)	
	第2年次 (1学期)	●データ・資料等の整理・分析 ●博士論文の中心的な柱となる論文作成 ●事例研究(フィールドワーク、文献調査、 資料調査、アクションリサーチなど) ●プログラム報告会
	第2年次 (2学期)	
	第3年次	●データ・資料の調査・分析 ●事例研究(フィールドワーク、文献調査、 資料調査、アクションリサーチなど) ●博士論文の作成 ●プログラム報告会
下記の科目を履修 ●メジャー分野の「研究法」 ●メジャー分野または メジャー隣接分野の「研究法」 ●マイナー分野の「研究法」		

専任教員の研究分野や指導可能なテーマ等の詳細は、
下記ウェブサイトで確認いただけます。
プログラムの選択や研究計画を検討する際に参考にしてください。

▶ 指導領域や指導方法、入学者へ求めること等(本学ウェブサイト)

<https://www.ouj.ac.jp/doctor/about/>



▶ 研究分野や所属学会等の詳細(researchmap研究者情報)

<https://researchmap.jp/researchers>



博士論文の閲覧方法

博士学位論文については、以下のウェブサイトにて要約等を掲載しています。



放送大学機関リポジトリManapio(まなびお)

<https://ouj.repo.nii.ac.jp/>

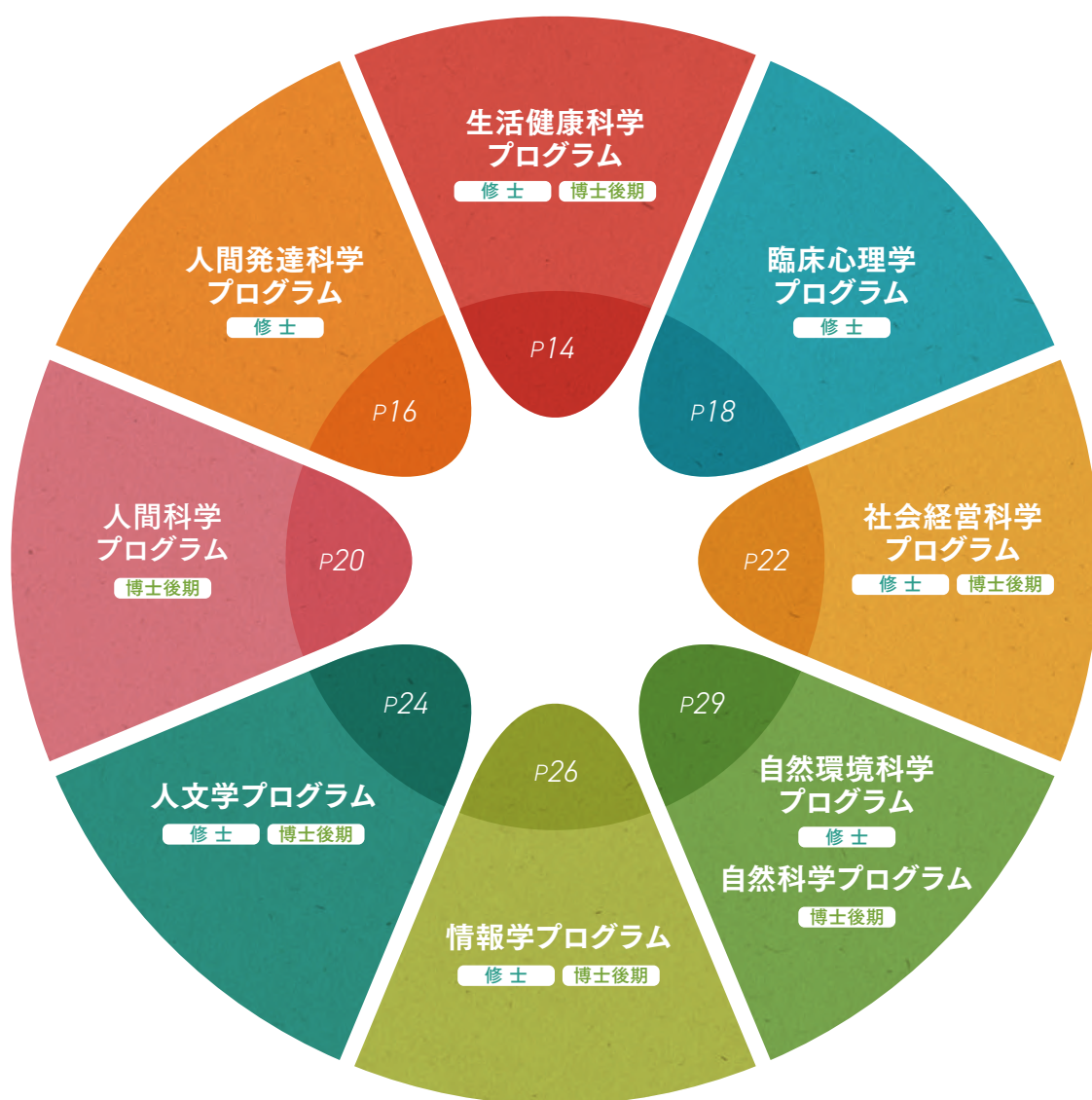


(放送大学機関リポジトリ(The Open University of Japan Repository)では、放送大学で生産された学術成果を
収集・蓄積し、広く公開しています。)

プログラム紹介

放送大学大学院は、1研究科(文化科学研究科)、1専攻(文化科学専攻)の下に、
修士課程は7つのプログラム、博士後期課程は6つのプログラムを開設しています。

修士全科生・博士全科生は、この中から1つを選んで所属します。



生活健康科学プログラム

修士課程

博士後期課程

人間生活の根本である新しい学び生活の課題に取り組む指導の人材を育成。

修士課程

人材養成目的

生活科学、健康科学、社会福祉学の領域における専門的かつ総合的な知識を持ち、生活環境をよりよい方向に導くための方法を習得し、人々の生活の質の向上に資するための施策に積極的にいかかわる能力を有する指導の人材の養成を目的とします。

求める学生像

- 生活科学、健康科学、社会福祉学などの分野において研究を行うために必要な専門的基礎知識と問題意識を持っている人
- 自分自身で問題を発見し、調査・検証をし、政策的・実践的提言を含む研究論文を執筆する能力を持っている人
- 生活の現実や健康の問題、それらにかかわる専門職のあり方に常に関心を向けながら、学問・研究との接点を探ろうとする姿勢を持っている人

過去の修士論文のテーマ例

- 過疎化が深刻な離島における住民主体の見守りネットワークの試み
- 精神看護学実習における患者と看護学生の対人関係のプロセス－患者へのインタビューの分析－
- 中等度認知症の人の生活行為に対する支援手法としての意思決定支援－作業療法士の実践に着目した実態調査－
- 心エコー・ドブラ法を用いた下大静脈径のカットオフ値の設定

修了生からのメッセージ

私はこれまで理学療法士として臨床現場での業務に没頭し、その中で臨床研究の重要性を認識し修士号取得を志しました。理学療法士は、その養成校で理学療法学の修士を取得することが一般的です。しかし私がテーマとする脊髄損傷という疾患に対して多くを還元するには、理学療法以外の専門家にも学ぶべきではないかと考え、放送大学の門を叩きました。今回の研究では回復期リハビリテーション病棟における脊髄損傷者の神経学的な予後・退院先について統計学的検討を行い、神経学的回復のみが重要ではないという結果を得ました。期待通り田城教授のゼミでは、医療関係や教育福祉の多職種の方々と学びを共にし、「脊髄損傷者の支援に多職種連携、福祉の利用や地域の支援が重要である」ことを深く考察することができました。臨床現場を経て得た専門的な経験をもとに、広い視野を得られる放送大学で研究に取り組んだことで、新たな知識・経験・興味が生まれました。これらを臨床に生かすことはもちろん、これからまだまだ様々な視点から学ぶことができるという自信を持つことができました。

論文テーマ

脊髄損傷者の神経学的回復についての後方視研究
～回復期リハビリテーション病棟における課題解決に向けて～



宮垣 さやかさん
2022年度修了

博士後期課程

人材養成目的

生活科学、健康科学、社会福祉学及びそれらの学際領域における高度な自立的研究能力を有し、専門的かつ総合的な広い学識を実践に活用するとともに、人々の生活と健康の向上に資する公共的施策もしくは地域社会の形成をリードすることのできる人材、及び当該領域において自立的・創造的に高度な研究を遂行することのできる人材の養成を目的とします。

求める学生像

特定非営利活動法人メンバー、非政府組織メンバー、看護師、保健師、コメディカル、社会福祉士、介護福祉士など、危機管理、国際協力、保健、看護、社会福祉等の分野において研究・企画・運営・管理等の職務に就き、さらに高度な研究能力とそれに基づく指導能力を獲得し、もってそれらの分野において施策を企画立案する力、組織を運営する力、連携する力を指導的に発揮しようという意思を強く持つ人、及び当該領域において自立的・創造的に高度な研究を遂行することを目指す人

過去の博士論文のテーマ例

- わが国の歯科医療システムにおける生活者・歯科医師関係の動態－生活者主体口腔リスクマネジメントの観点から－
- ナショナルデータの解析による医薬分業制度の評価
- 中山間地域に暮らす高齢女性の生活の変遷に関する研究－過疎化する高知県仁淀川町T地域を事例に－
- 住宅取引における宅地建物取引業者の機能と限界に関する研究

修了生からのメッセージ

私は作業療法士として、主に高齢者の健康寿命延伸を目的とする介護予防事業に携わっている。現場で感じるのは高齢者へのテレビの影響の大きさである。このことから、修士課程ではテレビ視聴と認知機能との関係をテーマとしてまとめた。しかし、さらに思考を深めるために博士後期課程へと進んだ。博士後期課程では新たな方法を用いて、フレイル高齢者がテレビ視聴に求めるものは、情報の取得と人との交流であるという結論を得た。この一連の過程において、川原先生、戸ヶ里先生、岩崎先生、井出先生から実に多くのことを授かった。特に、分野を問わず国際的な視野で先行研究にあたること、精緻な論理的思考をするよう鍛えられたように思う。時に厳しく、時に優しく導いてくださった先生方は、それぞれ優れた研究者でもある。これからは、仕事における課題について解決策を見出し、提案すること、公表すること、共有することを地道に行ないたいと考えている。

論文テーマ

高齢者のテレビ視聴とフレイルとの関係
－フレイルの人がテレビ視聴に求めるもの－



荻原 牧子さん
2021年度修了

2024年度 修士課程開設予定科目一覧

博士全志願者の方は「[博士後期課程授業科目概要](#)」をご覧ください。
修士課程開設科目は修士課程の学生のみ履修できます。

BSラジオ オンライン

科目名	単位	メディア
家族政策研究('21)	2	
リスク社会における市民参加('21)	2	
食健康科学('21)	1	
コミュニティケア('24)	2	
生活リスクマネジメント('17)	2	
精神医学特論('22)	2	
ヘルスリサーチの方法論('19)	2	
スポーツ・健康医科学('19)	2	
健康・スポーツ科学研究('21)	2	
福祉政策と人権('22)	2	
社会福祉の探究('24)	2	
臨床推論('16)	1	

科目名	単位	メディア
フィジカルアセスメント特論('16)	1	
臨床病態生理学特論('17)	1	
疾病・臨床病態概論('17)	2	
臨床薬理学特論('17)	1	
特定行為実践特論('17)	1	
特定行為共通科目統合演習('17)	1	
統合臨床病態生理学・疾病概論('19)	2	
統合医療安全・特定行為実践特論('19)	1	
生活環境情報学基礎演習('18)	2	
生活空間情報の表現とGIS('24)	1	
アカデミック・スキルズ('20) ^注	1	

注: 修士全志願者のみ履修可能な科目

専任教員一覧 (専門分野・指導可能なテーマ)



奈良 由美子 教授

リスクマネジメント学／リスクマネジメント論

リスクマネジメント、リスクコミュニケーション、リスクガバナンス、レジリエンス、生活経営に関するテーマ。



下夷 美幸 教授

家族社会学／家族政策論

現代家族をめぐる問題、および関連する制度・政策に関する研究（アプローチは質的調査研究）。



朝倉 富子 教授

食品学／調理学／栄養学

食品学、調理学、栄養学、味覚科学を基本とする研究テーマ。



石丸 昌彦 教授

精神医学／精神保健学／
臨床死生学／死生学

精神医学、精神看護、精神保健福祉などメンタルヘルスに関わる実証的研究、臨床死生学領域での実証的研究。



田城 孝雄 教授

内科学／公衆衛生学／地域医療学

医療提供体制の研究、地域における保険・医療・介護・福祉の連携に関する研究など。



井出 訓 教授

老年学

看護・介護の実践、高齢者の健康問題、認知症ケアなど、高齢者の健康、保健、ケアに関わる研究。



戸ヶ里 泰典 教授

基礎看護学／保健医療社会学

ストレス対処・健康生成力概念SOC の測定・形成・向上、健康生成論的アプローチ、思春期・地域住民・労働者のストレスと対処、障害者・患者のライフと支援、社会関係、ヘルシリテラシー、ポジティブ心理学とストレス関連成長など。



山内 豊明 教授

臨床看護学／臨床アセスメント学

フィジカルアセスメントに関する方法論の構築、検証およびその普及方法の開発など。



関根 紀子 教授

運動生理学／運動生化学／体力医学

運動生理・生化学、筋生理・生化学、体力・トレーニング科学など。



山田 知子 教授

社会福祉学

貧困・生活問題／高齢者、女性の生活問題と福祉政策／地域の生活変動と住民、福祉の人材、ジェンダーと福祉。



川島 聡 教授

障害法／国際人権法／障害学

障害者等の日常生活・社会生活に関わる様々なテーマ、なかでも障害学、障害法、国際人権法などの学問領域に関連するテーマ。



川原 靖弘 准教授

環境生理学／健康工学／認知科学

モバイルセンシング、リハビリテーション科学、環境認知の生理学的解明、地理空間情報解析、ヒューマンインタフェース等をテーマとした、情報の収集・解析、メディアの形態、社会実装方法に関わる研究。

人間発達科学プログラム

修士課程

現代の家庭、学校、地域社会が抱える教育課題を科学的に解明し、実践的な解決策を探る。

修士課程

人材養成目的

現代社会は人間の発達にさまざまな課題を要請しているとともに発達上の困難や問題も生起させています。人間発達科学プログラムは、心理と教育に関する科学的・実証的な調査研究の方法と専門的知見を有し、家庭、教育機関、地域社会等の諸分野で実践的に活動できる指導的人材の養成を目的とします。

求める学生像

- 人間発達の心理的・教育的な問題に強い課題意識と学習意欲を有する人
- 上記の問題を科学的・実証的に考え分析して課題に積極的に取り組もうとする熱意のある人

過去の修士論文のテーマ例

- 高校生の自尊感情への発達段階および学校文化の影響 ～自尊感情の顕在的および潜在的側面からの調査～
- 自律的なキャリア構築を実践する社会人の「学ぶ力」に関する質的研究
- 大学における職員の雇用形態と主体性の検証 一私立大学職員の多様な働き方を中心に～
- 副校長の意識調査に基づく学校改善の内容と効果及び助長要因と阻害要因の影響分析

修了生からのメッセージ

ある講演会で、その時講師を務めた先生の履歴に「放送大学大学院」があった。その時、「こういう方法があるのか」とひどく感心させられた。大学院というと、大学卒業時の選択肢か、長期派遣研修生という立場しか、その当時の私にはイメージがなかった。放送大学ならば、現職教員のまま、だれかに気を使いながら研究に励む必要がないと、背中を押されたような気がした。問題は時間である。後々、自分を苦しめることにならないか、いくらかの不安はあった。でも、終えてみると、それは無用な心配だった。学びたいと思う人に、寛容な社会であってほしい。放送大学に出合えてよかった。



中嶋 太さん
2019年度修了

論文テーマ 「小学校社会科授業における「問い」の検討と提言」
～児童の主体的な追究を促す価値判断・意思決定への着目～

2024年度 修士課程開設予定科目一覧

修士課程開設科目は修士課程の学生のみ履修できます。

TV BSテレビ radio BSラジオ オンライン

科目名	単位	メディア
教育文化の社会学('17)	2	radio
成人の発達と学習('19)	2	radio
道德教育の理念と実践('20)	2	radio
海外の教育改革('21)	2	radio
カリキュラムの理論と実践('21)	2	radio
教育老年学('22)	2	radio
教育行政と学校経営('24)	2	radio

科目名	単位	メディア
学校臨床心理学特論('21)	2	TV
発達心理学特論('21)	2	TV
現代社会心理学特論('15)	2	radio
心理・教育統計法特論('21)	2	radio
教育心理学特論('24)	2	radio
アカデミック・スキルズ('20)注	1	オンライン

注:修士全科生のみ履修可能な科目

専任教員一覧 (専門分野・指導可能なテーマ)



岩永 雅也 学長／教授 修士

教育社会学／生涯学習論

現代社会と生涯学習、大学と成人学習者、遠隔高等教育、教育領域における社会学的調査とその応用、才能教育、など。



苑 復傑 教授 修士

高等教育論／遠隔高等教育／比較教育学

社会経済と大学、情報通信技術と高等教育、大学の国際化、遠隔高等教育などに関する研究。



岩崎 久美子 教授 修士

成人教育学／教育社会学
生涯学習論／社会教育

家庭、地域社会、企業等における学習活動に関する理論・実践や、個人のキャリア発達と学習に関する研究など。



橋本 鉦市 教授 修士

高等教育論

高等教育に関する制度、政策、組織、言説など全般にわたりますが、史資料・政策文書などに依拠した分析をメインとしています。



森 津太子 教授 修士

社会心理学／社会的認知

対人認知、社会的推論など、人間の社会的認知に関わる事象を実験、調査等の手法を用いて検討する研究。



進藤 聡彦 教授 修士

教育心理学

教育心理学や認知心理学に関連したテーマで、特に教科学習の教授・学習過程、学習への動機づけ、教育評価など。



高橋 秀明 教授 修士

認知心理学／情報生態学

「問題解決」ということを広義に捉えて問題ありません。テーマに応じて方法論を検討します。



櫻井 直輝 准教授 修士

教育政策／教育行財政学

教育政策、教育行財政、教師教育政策。



向田 久美子 准教授 修士

発達心理学／文化心理学

子どもの発達と環境（家庭や学校、仲間、メディア、文化）との関わり、成人期の発達と社会経験の関連など。



臨床心理学プログラム

修士課程

心の問題が深刻さを増す現代、密度の濃い演習・実習を通して臨床心理士の育成と再研修を行う。

修士課程

人材養成目的

人材養成目的 不登校や引きこもり、いじめ問題、子育て不安、虐待やDV、中高年の職場環境の問題、喪失や死との出会い、そもそも生きてゆくことにまつわる不安など、現代においては、こころの問題は深刻さを増し、専門的・実践的な取り組みが求められています。臨床心理学プログラムでは、教育・医療・保健・福祉・司法・労働・産業等さまざまな分野で、広い視野を持ちながら、実践的に活動できる高度専門職業人（臨床心理士）の育成及び再研修を目的とします。

求める学生像

臨床心理学は、心理臨床の実際の中から「臨床の知」を紡ぎだそうとする学問であるので：

- 既に心理臨床現場で経験を積んでいる場合は、心理職としてのレベルアップを目指そうとする人々
- そして、心理臨床経験を学問として深めたいと希望する人々
- これから心理臨床現場で専門的な心理職として仕事をしたいと望んでいる人々

過去の修士論文のテーマ例

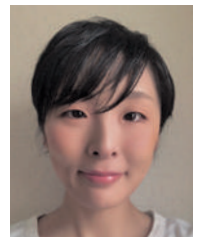
- 身体障害者の社会参加評価尺度の開発
- 感情労働がバスドライバーに及ぼす交通心理の研究
- 育児休業後職場復帰期の母親に対する心理的援助の研究 ～バウムテスト・風景構成法を用いて～
- アスペルガー症候群の本人告知の必要性和自己理解支援 一当事者へのインタビュー調査から～

修了生からのメッセージ

多岐にわたる養護教諭の執務の中から、心理支援を追究してみたいと思い、放送大学大学院への進学を決めました。論文執筆にあたり、養護教諭の先生方の語りを聞くことは、同時に自分自身もこれまでの養護教諭としての在り方を振り返る機会となり、毎月のゼミでは私の分析や考察を受け止め、新たなヒントや着眼点を示し、探索を促してくれる佐藤先生に、臨床家としての姿勢を学びました。幕張でのご学友の皆さまとご縁にも恵まれ、私にとって論文執筆の過程全体が、養護教諭から心理職への転機を支えるものとなりました。この貴重な体験と研究で得られた知見を現場の支援に還元できるよう研鑽を続けたいと思います。

論文テーマ

養護教諭の欲求不満場面における反応過程
～曖昧性と主体性に焦点をあてて～



北原 幸香さん
2019年度修了

専任教員一覧（専門分野・指導可能なテーマ）



大山 泰宏 教授 修士

心理臨床学／力動的心理学療法

臨床心理学の多くの領域に関して指導します。研究手法は、文献研究、質的研究、計量研究など、何でも歓迎です。



橋本 朋広 教授 修士

臨床心理学／ユング心理学／ロールシャッハ法

心の苦しみや癒しの問題に深層心理学的にアプローチする研究。ロールシャッハ法など投影法に関する研究。



丸山 広人 教授 修士

臨床心理学／学校臨床学

学校臨床、スクールカウンセリング、親子関係など、生きる場の成長と心の成長の関係についての研究を指導します。



佐藤 仁美 准教授 修士

臨床心理学

心理臨床における表現とその対話性について。



波田野 茂幸 准教授

臨床心理学

臨床研究、特に児童思春期臨床、教育臨床に関する研究。

※公認心理師教育推進室兼任のため
大学院研究指導は担当しません。

科目名	単位	メディア
臨床心理学特論('23)	4	radio
臨床心理面接特論I('19)	2	radio
臨床心理面接特論II('19)	2	radio
臨床心理基礎実習 ^注	2	面接授業
臨床心理査定演習 ^注	4	面接授業
臨床心理実習 ^注	2	実習
臨床心理学研究法特論('23)	2	radio
心理・教育統計法特論('21)	2	radio
発達心理学特論('21)	2	TV

科目名	単位	メディア
教育心理学特論('24)	2	radio
現代社会心理学特論('15)	2	radio
司法矯正・犯罪心理学特論('20)	2	radio
精神医学特論('22)	2	radio
保健医療心理学特論('22)	2	TV
障害児・障害者心理学特論('19)	2	radio
学校臨床心理学特論('21)	2	TV
臨床心理地域援助特論('21)	2	radio

注:修士全科生のみ履修可能な科目

実習・演習について

- 臨床心理学プログラム所属の修士全科生については、放送授業(「臨床心理学特論」「臨床心理面接特論I・II」)、面接授業(実習・演習)および研究指導等が必修となっています。
なお、実習・演習は、臨床心理学プログラム所属の修士全科生以外は履修できません。
- 第2年次に履修する「臨床心理実習」の学外実習施設については、履修者の居住地に近い施設を確保するよう努力しますが、近隣都道府県の施設に通っていただく場合もあります。また、臨床心理実習費として別途20,000円が必要となります。
- 実習・演習を受ける際の旅費等の経費は各人で負担してください(交通機関によっては学割の利用も可能です)。

年次	科目	単位数	時期(年度により多少異なります。)	場所
第1年次	「臨床心理基礎実習」	2単位	5月中旬(予定)(2日間程度)	本部
			8月上旬(予定)(3日間程度)	
			2月上旬(予定)(5日間程度)	
	「臨床心理査定演習」	4単位	5月中旬(予定)(4日間程度) 8月上旬(予定)(3日間程度)	本部
第2年次	「臨床心理実習」	2単位	年間90時間程度の実習 例1)7時間/日×13週 例2)3時間/週×30週	学外実習施設 ・病院 ・教育相談所 ・児童相談所 など
			臨床心理実習・本部面接授業 8月下旬(予定) (3日間程度)	本部

1年次の5月中旬に「オリエンテーション」「臨床心理基礎実習」「臨床心理査定演習」が連続7日間程度、8月上旬に「臨床心理基礎実習」「臨床心理査定演習」が連続6日間、2月上旬に「臨床心理基礎実習」が連続5日間、さらに2年次8月下旬に「修士論文中間報告会」「臨床心理実習・本部面接授業」が連続3日間程度開設され、臨床心理学プログラム所属の修士全科生は全日程参加が必要となります。

臨床心理士の受験資格取得について

放送大学大学院は、公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会の第2種指定大学院となっています。臨床心理学プログラム所属の修士全科生の方は、所定の単位を修得、修了した後、1年以上の心理臨床実務経験*を経て、臨床心理士資格審査の受験資格を得られます。

詳細は本学ウェブサイト <https://www.ouj.ac.jp/reasons-to-choose-us/qualification/psychologist2/> をご覧ください。



*修了後1年以上の心理臨床実務経験とは、公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会が認めるものです。詳細は、公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会ウェブサイトを確認してください。なお、放送大学では施設等の紹介は行っておりません。

人間科学プログラム

博士後期課程

現代の家庭、学校、職場、社会が抱える教育や発達の課題に対して、
実践的でオリジナリティの高い研究を遂行し、
課題の改善・解決に向けた取り組みを職場・地域で中心的に担う。

博士後期課程

人材養成目的

心理学、臨床心理学、教育学及びそれらの学際領域における高度な自立的研究能力を有し、専門的かつ総合的な広い学識を実践に活用するとともに、人々の心のあり方の究明とその問題状況の解決に取り組み、子どもの教育、高等教育さらには成人の学習に関わる公共的施策を高度に指導することのできる人材、及び当該領域において自立的・創造的に高度な研究を遂行することのできる人材の養成を目的とします。

求める学生像

社会心理、学校教育、教育行政、カウンセリング、心理療法等の分野において研究・企画・運営・管理等の職務に就き、さらに高度な研究能力とそれに基づく指導能力を獲得し、もってそれらの分野において施策を企画立案する力、組織を運営する力、連携する力を指導的に発揮しようという意思を強く持つ人、及び当該領域において自立的・創造的に高度な研究を遂行することを目指す人。

過去の博士論文のテーマ例

- 教育委員会事務局行政職員に関する研究 ―教育行政ブローパー人事システムと教育行政職員の職務遂行能力―
- 平成期公立大学の設置政策に関する研究 ―政策の窓モデルによる分析―
- PTA親会員の不満とその要因構造に関する研究
- 学士課程の数学的リテラシーを涵養するための数理モデリングによる授業の構成

修了生からのメッセージ

日本の殺人発生率が世界最小の理由は、少年非行が初期の段階で食い止められているためと考えられています。少年鑑別所では、非行少年のアセスメントやトリートメント、地域の非行及び犯罪の防止に向けたコンサルテーションのほか、犯罪心理の研究を行っており、博士号を取得する心理技官は在職中を含め複数おります。

放送大学の博士後期課程は、隣接分野の単位取得が必須とされており、指導教官の進藤聡彦教授(心理学)に加え、岩永雅也学長から逸脱の医療化論(社会学)をお示しいただくなど、学識豊かな方々との学際的な交流を通じて俯瞰力を高めつつ、日の出前に起床して執筆し、犀の角のように歩む日々は幸せでした。各都道府県に学習センターがある通信制大学に同課程が設置されたことで、2年おきに全国転勤がある私もリカレント教育の機会に恵まれ、大変感謝しています。証拠に基づく政策立案の実現のためにも、社会人大学院の役割は大きいと思います。



岩上 康幸さん
2021年度修了

論文テーマ

素行症のサブタイプと併存症に関する心理学的研究

― 多次元項目反応理論及び構造方程式モデリングによる検討 ―

開設科目については「博士後期課程授業科目概要」をご覧ください。



専任教員一覧 (専門分野・指導可能なテーマ)



苑 復傑 教授 博士後期

高等教育論／遠隔高等教育／比較教育学

社会経済と大学、情報通信技術と高等教育、大学の国際化、遠隔高等教育などに関する研究。



岩崎 久美子 教授 博士後期

成人教育学／教育社会学
生涯学習論／社会教育

家庭、地域社会、企業等における学習活動に関する理論・実践や、個人のキャリア発達と学習に関する研究など。



橋本 鉦市 教授 博士後期

高等教育論

高等教育に関する制度、政策、組織、言説など全般にわたりますが、史資料・政策文書などに依拠した分析をメインとしています。



森 津太子 教授 博士後期

社会心理学／社会的認知

対人認知、社会的推論など、人間の社会的認知に関わる事象を実験、調査等の手法を用いて検討する研究。



進藤 聡彦 教授 博士後期

教育心理学

教育心理学や認知心理学に関連したテーマで、特に教科学習の教授・学習過程、学習への動機づけ、教育評価など。



高橋 秀明 教授 博士後期

認知心理学／情報生態学

「問題解決」ということを広義に捉えて問題ありません。テーマに応じて方法論を検討します。



大山 泰宏 教授 博士後期

心理臨床学／力動的心理療法

臨床心理学の多くの領域に関して指導します。研究手法は、文献研究、質的研究、計量研究など、何でも歓迎です。



橋本 朋広 教授 博士後期

臨床心理学／ユング心理学／ロールシャッハ法

心の苦しみや癒しの問題に深層心理学的にアプローチする研究。ロールシャッハ法など投影法に関する研究。



丸山 広人 教授 博士後期

臨床心理学／学校臨床学

学校臨床、スクールカウンセリング、親子関係など、生きる場の成長と心の成長の関係についての研究を指導します。



櫻井 直輝 准教授 博士後期

教育政策／教育行財政学

教育政策、教育行財政、教師教育政策。



向田 久美子 准教授 博士後期

発達心理学／文化心理学

子どもの発達と環境(家庭や学校、仲間、メディア、文化)との関わり、成人期の発達と社会経験の関連など。

社会経営科学プログラム

修士課程

博士後期課程

激変する現代に求められる持続可能な社会経営。政治や経済など、あらゆる社会領域での提言能力を養成。

修士課程

人材養成目的

今日の社会（国際、企業、組織や地域社会）は、政治的・経済的構造変容のもとで、従来からの諸問題に加え、多様で複雑な新たな諸課題が生じ展開しています。これらの社会的諸課題を発見し分析し、解決するための方法論を身につけ、そうした諸課題に多面的に追求し関わる高度な能力の養成を目的とします。

求める学生像

- 職場やコミュニティでの「経験」を深く積み重ね、それを更に広範な「学識」と結びつけようと考えている人
- 「個別」の状況を的確に理解し、それを「社会」全般の普遍的な認識にまで高めることを目指す人
- 「地域」社会特有の問題を認識しつつ、地球規模にまで広がる「国際」的な視野の獲得を目指そうとする人
- 技術の進展を理解しながら、自らの発想を専門分野に生かしつつ、社会全体の文脈に位置づける能力を獲得しようと考えている人
- 市民活動や社会ガバナンスなどの日常活動に対しても、知的好奇心を常に発揮して、企画力を高めようと考えている人

過去の修士論文のテーマ例

- 「組織としての政党」研究 ―A.パーネビアンコを手がかりに―
- 中小企業における知的財産活動の活性化 ―技術の棚卸を中心とした能動的支援―

修士生からのメッセージ

自動車メーカーに勤務しながら修士課程では、自社の製品開発能力の欠点をテーマに研究を始めた。しかし常軌を逸する重大スキャンダルが製造現場と経営トップから同時噴出した。社内でのデータ取りを計画していたが、まもなく司法関係者以外の内部調査が全面禁止され研究計画を見直すことになった。事態を逆手に自社の製造問題を社外からでもアクセス可能な方法で手がかりを入手して分析してみようと、松井先生から社会的視座に立ったアプローチをアドバイス頂きテーマを変更した。データの収集と分析は地道な作業だったが、家族やゼミ仲間の理解と協力もあり予想通りの結果を得られた時は学術研究の醍醐味を味わうことが出来た。放送大学大学院では本業の会社組織としての枠組みでは探求が難しい課題に対してもアカデミックに問題の本質を解明できる素晴らしさがある。

論文テーマ | 大手製造業の製品安全保障上の不適切行為はなぜ起こったのか ―データサイエンスから見える企業組織の内面―



渡辺 繁樹さん
2019年度修了

博士後期課程

人材養成目的

政治学、経済学・経営学、社会学などに加えて、これらの学際領域における高度な自立的研究能力を有し、専門的かつ総合的な広い学識を実践的に活用して直面する社会的諸課題を的確に発見し、その要因と背景を究明して問題状況の解決に取り組み、社会や組織の経営・運営に関わる公共的施策を高度に指導することのできる高度な社会人研究者として公共の場で活躍できる社会分析家（アナリスト）・社会的企業家、公共政策の社会実践家・社会批評家（ジャーナリスト）、学際的・超領域的な社会研究者、及び当該領域において自立的・創造的に高度な研究を遂行することのできる人材の養成を目的とします。

求める学生像

行政組織、企業、地域社会・職場等、市民団体、NPO、研究機関等において研究・企画・運営・管理等の業務に就き、さらに高度な研究能力とそれに基づく指導能力を獲得し、もってそれらの分野において施策を企画立案する力、組織を運営する力、連携する力を指導的に発揮しようという意思を強く持つ人、及び当該領域において自立的・創造的に高度な研究を遂行することを目指す人。

過去の博士論文のテーマ例

- 現業組織における組織学習に関する研究 ―設備ネットワーク型公益事業の事例研究より―
- 社会的無視・忘却における要援護性に関する研究

修士生からのメッセージ

博士後期課程への入学を考えたのは、定年退職の1年ほど前でした。チャレンジ精神を持ち続けたいとの思いから、再就職後の仕事と両立可能な放送大学大学院を選択することに迷いはありませんでした。

研究テーマは、和食で有名なユネスコ無形文化遺産保護条約に関するものです。同条約の無形文化遺産の内容が、我が国文化財保護法上の無形の文化財より範囲が広いとの指摘があり、具体的に検証し、国際法と国内法の関係の観点から考察しました。

博士論文の作成に当たっては、国際法の大家であられる柳原正治先生から一対一のご指導を受けるという大変恵まれた環境の中で研究を進めることができました。また研究テーマは文化人類学に関連があり、大村敬一先生のゼミに受け入れていただきました。さらに他の先生方からも個別指導を受ける機会が数多くあり、濃密かつ充実した研究環境で過ごすことができました。

皆さんも、ぜひ入学をご検討されることをお勧めします。

論文テーマ | 無形文化遺産保護条約と国内法の関係に関する研究 ―同条約第2条の「無形文化遺産」定義規程の分析を踏まえて―



石野 利和さん
2021年度修了

2024年度 修士課程開設予定科目一覧

博士全志願者の方は「博士後期課程授業科目概要」をご覧ください。
修士課程開設科目は修士課程の学生のみ履修できます。

radio BSラジオ

オンライン

科目名	単位	メディア
経済政策（'22）	2	radio
知財制度論（'20）	2	radio
公共政策（'22）	2	radio
都市社会構造論（'23）	2	radio
環境工学（'19）	2	radio
社会的協力論（'20）	2	radio
実践的都市景観形成論（'19）	2	radio
地域産業の発展と主体形成（'20）	2	radio

科目名	単位	メディア
統合イノベーション制度研究（'21）	1	radio
『貨幣・勤労・代理人』文献講読（'21）	1	radio
法律学文献講読（'21）	1	radio
現実と向き合う政治理論（'22）	2	radio
人的資源管理（'22）	2	radio
保険法（'22）	2	radio
近代建築は暮らしをどう変えたか（'24）	2	radio
アカデミック・スキルズ（'20）注	1	radio

注：修士全志願者のみ履修可能な科目

専任教員一覧（専門分野・指導可能なテーマ） ※ 博士後期 の表示がない教員は博士後期課程の主研究指導教員として選ぶことはできません。



北川 由紀彦 教授 修士 博士後期

社会学／都市社会学

都市社会学、社会問題の社会学、社会調査など。



玉野 和志 教授 修士 博士後期

都市社会学／地域社会学

都市、地域、住民生活、都市政策、自治、参加、市民活動、自治会町内会、その他、社会学的な課題や方法について。



古橋 元 教授 修士 博士後期

農業経済学／世界の食料需給

食料・農業、農産物の国際市場、世界の食料需給等に関する課題など。



松井 美樹 教授 修士 博士後期

オペレーションズ・マネジメント
サプライチェーン・マネジメント

オペレーションズ・マネジメント、およびサプライチェーン・マネジメントに関する理論および実証的研究。



柳原 正治 特任教授 修士

国際法

国際関係法。



李 鳴 教授 修士 博士後期

商法（保険法）

商法を中心とする民法学。



齋藤 正章 准教授 修士 博士後期

会计学／管理会計

財務会計、管理会計、公会計、環境会計、内部監査、経営分析など。



児玉 晴男 特任教授 修士

新領域法学／学習支援システム

科学技術・情報技術と社会との相関から、知的財産政策・情報政策・科学技術政策と著作権・知財権法、情報法、科学技術法との制度デザインおよびその関連からの社会システムに関する諸問題に関するテーマ。ほか、情報倫理・科学技術倫理、研究倫理など。



原田 順子 教授 修士 博士後期

経営学／人的資源管理

人材の採用、育成、報酬などに関する研究。



堀部 安嗣 教授 修士

建築設計／環境デザイン

建築、設計、住宅、建築環境。



松原 隆一郎 教授 修士 博士後期

社会経済学／経済思想

社会経済学、経済思想。



山岡 龍一 教授 修士 博士後期

西洋政治思想史
現代政治理論／政治学

西洋政治思想史、政治理論（特に規範的な原理や観念に関するもの）、社会科学の方法・哲学。



桑田 学 准教授 修士 博士後期

経済思想／環境思想

経済思想／環境思想の歴史と現在。他に環境倫理学や科学技術社会論など。



白鳥 潤一郎 准教授 修士 博士後期

国際政治学／日本政治外交史

政治学：国際政治学、日本政治外交史、エネルギー安全保障論など。

人文学プログラム

修士課程

博士後期課程

人文学の基礎的素養をもとに、総合的な知見と判断力を生かした実践的活動のできる人材の養成を目指す。

修士課程

人材養成目的

人間が長い知的営為の積み重ねによって築き上げてきた人文学の基礎的素養をもとに、総合的な知見と判断力を生かした実践的活動のできる人材の養成を目的とします。

求める学生像

- 哲学、美学芸術論、歴史学、文学、言語学、文化人類学などの人文学諸分野で蓄積され洗練されてきた研究の理論や方法を身につけることを目標としている人
- 文献資料や人々の活動現場を地道に調査し分析する意欲をもつ人
- 柔軟かつ積極的に多くの分野の研究成果を学びとり、多角的総合的に思考する力をもつ人

過去の修士論文のテーマ例

- 広報紙におけるやさしい日本語 ―受け手にとってのやさしさの要素検討―
- 備中松山藩の儒者山田方谷の思想の展開について ―講義録などから探る―
- ヘーゲル『小論理学』の「現実性」における必然性・実体・概念 ―疎外と支配から本源性の中へ―
- 言語表現と比較文化の研究 ―川端康成のフランス語訳作品を基に―

修了生からのメッセージ

2018年度第2学期に放送大学に編入学して2年で卒業、2021年度に放送大学大学院に入学しました。動機は、2011年から仲町六絵名義で始めた商業小説家としての活動をより良いものにするためでした。歴史学の研究手法を知れば、執筆にも役立つと考えたのです。テーマは日本中世における唐物（舶来品）の受容です。2015年に上梓した小説『南都あやかし帖』とも関連しています。当初は唐物の中でも金襴という織物だけを扱おうとしました。15世紀の日本では、金襴は全て舶来品だったのです。しかし近藤成一先生のゼミに参加しているうちに、日本中世史の研究として扱うのが難しいと考えはじめました。金襴は出土しにくいことに加え、大切に保存されてきた伝世品であっても、織られた年代が不明な場合が多いからです。対象を唐物全体に広げると決めたのは2年生の5月でした。歴史学研究の入口には到達できたと近藤先生に認めていただき、修了が決まった今、唐物の受容史は日本の文化と国際関係の歴史を知る上で重要と考えています。学部と院での経験は執筆に役立てるだけでなく、今後の歴史学研究の礎にします。

論文テーマ

『新聞日記』にみる唐物と銅銭
―勝負事の景品として―



榊原 亜紀子さん
2022年度修了

博士後期課程

人材養成目的

哲学、美学芸術論、歴史学、文学、言語学、文化人類学及びそれらの学際領域における高度な自立的研究能力を有し、専門的かつ総合的な広い学識を実践に活用するとともに、さまざまなジャンルの文化の普及啓蒙や地域社会・職場等における研究の遂行や公共的施策を高度に指導することのできる人材、及び当該領域において自立的・創造的に高度な研究を遂行することのできる人材の養成を目的とします。

求める学生像

博物館・美術館等の文化施設、研究機関、文化行政組織、企業の文化活動部門等において研究・企画・運営・管理等の業務に就き、さらに高度な研究能力とそれに基づく指導能力を獲得し、もってそれらの分野において施策を企画立案する力、組織を運営する力、連携する力を指導的に発揮しようという意思を強く持つ人、及び当該領域において自立的・創造的に高度な研究を遂行することを目指す人。

過去の博士論文のテーマ例

- 日蓮の世界認識の方法
- 「させていただく」という問題系 ―歴史社会語用論的調査と考察―
- ポストコロニアルの視座より見た遠藤周作文学の研究：村松剛・辻邦生との比較において明らかにされた、異文化受容と対決の諸相

修了生からのメッセージ

日本語研究の中には、世界の言語学に貢献できる知見がたくさんあります。私は長い間、それらを英語で国外に発信したいと考えていました。ならば自分で実践しようと、師事したい先生のいる放送大学の大学院博士後期課程に入学。フルタイムで働きながら、日本語研究を始めました。博士論文のテーマは「させていただく」の用法について。歴史社会語用的視点から調査を行った結果、大きな視座から敬語表現の変化という新たな知見を得ました。博士論文を基に初めての著書『「させていただく」の語用論』（ひつじ書房）を出版、続いて角川新書『「させていただく」の使い方』、最近では元指導教授との共編で『「させていただく」大研究』（くろしお出版）を出版しました。多くの人が敬語やコミュニケーションに興味を持っていることがわかりました。今後もことばの面白さを伝えていこうと思っています。放送大学は、一人ではできなかったことを始めるための知識や方法、仲間と出会える場所。独り立ちするまで、指導の先生が全力でバックアップし、チャンスのルートを導いてくださいます。

論文テーマ

「させていただく」という問題系
―歴史社会語用論的調査と考察―



椎名 美智さん
2018年度修了

2024年度 修士課程開設予定科目一覧

博士全志願者の方は「[博士後期課程授業科目概要](#)」をご覧ください。
修士課程開設科目は修士課程の学生のみ履修できます。

BSラジオ オンライン

科目名	単位	メディア
日本文化と思想の展開―内と外と('22)	2	
美学・芸術学研究('19)	2	
日本史史料を読む('21)	2	
朝鮮の歴史と社会―近世近代('20)	2	
西洋中世史('21)	2	

科目名	単位	メディア
日本文学の研究史('21)	2	
モダニズムの文学と文化('21)	2	
異文化との出会い('22)	2	
文化人類学の最前線('21)	2	
アカデミック・スキルズ('20)注	1	

注: 修士全志願者のみ履修可能な科目

専任教員一覧 (専門分野・指導可能なテーマ) ※ [博士後期](#) の表示がない教員は博士後期課程の主研究指導教員として選ぶことはできません。



青山 昌文 特任教授 [修士](#)

※2023年度に特任教授の任期満了

美学・芸術論

美学・芸術論が専門。芸術の分野として、美術・デザイン・建築等の視覚芸術が主たる研究対象、オペラ・ミュージカル等の舞台芸術にも強い関心。また、料理をも芸術と考えています。プラトン、アリストテレス、デイドロの美学、ロマネスク美術、ルネサンス美術、ロココ美術、現代芸術等が主な個別の関心領域。ほか、美術批評、料理文化論、比較文化論なども指導。



杉森 哲也 教授 [修士](#) [博士後期](#)

日本近世史

日本近世史に関するテーマの指導が可能。



河原 温 教授 [修士](#) [博士後期](#)

西洋史(中・近世史)／都市史・社会史

ヨーロッパ中近世史を中心とし、西洋史全般で指導が可能。



宮本 陽一郎 教授 [修士](#) [博士後期](#)

アメリカ文学／カルチュラル・スタディーズ

英語圏文学研究、映画研究、近現代文化研究。



大橋 理枝 教授 [修士](#) [博士後期](#)

異文化間コミュニケーション

異文化間コミュニケーションやコミュニケーション学に関連する内容、外国語教育関連の内容。



宮本 徹 准教授 [修士](#) [博士後期](#)

中国語学

中国語の歴史的研究、漢字文化圏の諸問題など。



魚住 孝至 特任教授 [修士](#)

哲学・日本思想

日本思想、身体論、実存哲学等を中心に指導。



近藤 成一 教授 [修士](#) [博士後期](#)

日本中世史・古文書学

鎌倉時代の特に政治史を専門に研究しているが、本学における日本史学の研究指導は杉森教授と分担し、近藤は古代・中世分野を担当している。



滝浦 真人 教授 [修士](#) [博士後期](#)

言語学・語用論・日本語学
イン/ボライトネス論

日本語を中心とする言語学全般、日本語教育学の一部で指導可能ですが、語用論的関心とアプローチを最も得意とします。



野崎 歓 教授 [修士](#) [博士後期](#)

フランス文学／文学・言語文化
翻訳論／映画論

フランス文学、テキスト分析、翻訳論、映画論、表象文化論。



大村 敬一 教授 [修士](#) [博士後期](#)

社会文化人類学／極北人類学

人類学一般、先住民研究、認知人類学、芸術人類学。



鶴見 英成 准教授 [修士](#) [博士後期](#)

博物館学／アンデス文明論

博物館関連、物質文化研究、歴史人類学的な諸テーマ。

情報学プログラム

修士課程

博士後期課程

情報社会で課題解決のための実践的研究活動ができる人材を養成する。

修士課程

人材養成目的

情報通信技術を基盤とする情報の表現と処理が社会現象や個人の思考傾向に大きな影響を与えている現代において、社会における諸問題を情報に関する基礎的認識に基づいて理解し解決する実践的活動ができる人材の養成を目的とします。

求める学生像

- 身の回りの諸問題を分析的に考えたりモデル化したりすることに興味をもっている人
- 既存のさまざまな理論や手法の理解に労を惜しまない人
- 情報学・情報科学・情報工学の面白さに触れたいと考えている人

過去の修士論文のテーマ例

- 公立大学図書館の実態分析 アクティブ・ラーニング・スペースの取り組みと整備状況に着目して
- 情報欠損のある日本語テキストコンテンツを機械学習によって修復する手法の開発
- 都立高校生 Twitter アカウントの所属推定アルゴリズムの提案と評価
- 型付きラムダ計算に基づく対話型シェルシステムの提案

修了生からのメッセージ

私は、技術者として情報セキュリティ管理業務に従事しています。大学院入学の動機は、先生がくださったお言葉のとおり、サイバー攻撃を検知する研究をしたいという大雑把なものでした。学位取得の個人的な意味づけは、当初は技術者の集大成の気持ちでした。しかし、さらに研究したいという思いが強まり、博士を視野に研究を続けています。学生生活の思い出は、ゼミの集まりや外部の研究発表会での交流です。交流の場は刺激的なご指摘をいただける楽しい場でした。この場をお借りして、辰己先生やゼミの皆さま、研究に理解を示してくれた家族や職場に御礼申し上げます。今後も研究をとおして、少しでも世の中に貢献したいと思います。



朝倉 哲也さん
2019年度修了

論文テーマ

DNS通信の文字列を機械学習してサイバー攻撃を検出する手法

博士後期課程

人材養成目的

情報の生成・探索・表現・蓄積・管理・認識・分析・変換・伝達に関わる原理と技術を探索し活用する高度な自立的研究能力を有し、専門的かつ総合的な広い学識を実践に応用するとともに、情報とその処理、及び情報化が人間と社会に及ぼす諸問題を的確に発見し、その要因と背景を究明して問題状況の解決に取り組み、高度な指導力を発揮できる人材、及び当該領域において自立的・創造的に高度な研究を遂行することのできる人材の養成を目的とします。

求める学生像

行政組織、企業、地域社会、市民団体、NPO、各種教育研究機関等において研究・教育・企画・運営・管理等の業務に就き、さらに高度な研究能力とそれに基づく指導能力を獲得し、もってそれらの分野において施策を企画立案する力、組織を運営する力、連携する力を指導的に発揮しようという意思を強く持つ人、及び当該領域において自立的・創造的に高度な研究を遂行することを目指す人。

プログラムからのメッセージ

青木 久美子 教授

情報学プログラム 博士後期課程へのお誘い

放送大学大学院博士後期課程情報学プログラムでは、実社会での様々な課題を情報という切り口で探求し、既存の知識を統合したうえで、新規性のある発見を博士論文という形でまとめます。新規性のある発見を行うには特定の分野に特化した科学的手法が従来用いられてきましたが、昨今では特に第4のパラダイムであると考えられている学際的でデータ主導型的手法で実際の課題解決に取り組む研究が増えつつあります。本プログラムでは、自身の経験や観察から芽生えた問題意識を、学術的研究として先行研究を土台としながらも、独自の視点から課題解決に取り組み、社会に貢献する人材の育成を目指します。情報学は、情報通信技術の技術的な課題から、人間社会における情報通信技術の活用・制度や情報の在り方など、現代社会に深く浸透している学術研究分野であると言えるでしょう。今ある問題意識から新しい知識発見へ、我々は情報学の広く深い海をナビゲートします。

2024年度 修士課程開設予定科目一覧

博士全志願者の方は「[博士後期課程授業科目概要](#)」をご覧ください。
修士課程開設科目は修士課程の学生のみ履修できます。

BSラジオ オンライン
※:放送授業のテレビ科目に該当するが、インターネット配信のみで視聴

科目名	単位	メディア
知能システム論('18)	2	
音楽・情報・脳('23)	2	
ソフトウェア工学('19)	2	
研究のためのICT活用('21)	2	
eラーニングの理論と実践('24)	2	
コンピューティング('19)	2	
データの科学('17)	2	
サイバーボランティア論('22)	2	

科目名	単位	メディア
情報とコミュニケーション('23)	2	
知財制度論('20)	2	
情報デザイン特論('22)	2	※
教育情報システム設計('23)	1	
要求工学('24)	2	
アカデミック・スキルズ('20) ^注	1	

注:修士全志願者のみ履修可能な科目

専任教員一覧 (専門分野・指導可能なテーマ) ※ [博士後期](#) の表示がない教員は博士後期課程の主研究指導教員として選ぶことはできません。



青木 久美子 教授 [修士](#) [博士後期](#)

情報コミュニケーション学／
教育工学／社会情報学

メディアやICTの教育活用、メディアの社会文化的影響
他、人文社会科学的観点から研究するテーマ。



浅井 紀久夫 教授 [修士](#) [博士後期](#)

マルチメディア情報学

コンピュータビジョン、機械学習、パターン認識、信号処理、
コンピュータグラフィクス、拡張現実感に関わるテーマ。



大西 仁 教授 [修士](#) [博士後期](#)

認知科学

人間の認知に関する実験研究、データ分析、シミュレ
ーション、人工知能など。



加藤 浩 教授 [修士](#) [博士後期](#)

教育工学

教育工学全般、なかでも協調学習支援、教育情報工学、社
会文化的学习理論、教育評価、ICTを活用した教育など。



近藤 智嗣 副学長／教授 [修士](#) [博士後期](#)

映像コンテンツ開発／博物館展示

映像コンテンツ制作、デジタルコンテンツ開発、映像認
知、博物館展示など。



芝崎 順司 教授 [修士](#) [博士後期](#)

教育工学／メディア教育

オンライン学習および学習システム、ネットワーク利用、メ
ディアリテラシー、リメディアル教育、遠隔学習支援など。



鈴木 一史 教授 [修士](#) [博士後期](#)

計算機科学／コンピューターサイエンス

計算機科学(コンピューターサイエンス)関連のさまざまな
テーマ。例としては、2次元画像データ処理、3次元データ処
理、プログラミング等。具体的には、卒業生・修了生の方の
研究テーマを参考。



辰己 丈夫 教授 [修士](#) [博士後期](#)

情報学／情報教育
情報倫理

情報科学・情報セキュリティ・情報倫理の教育法、および、
情報数学。



中川 一史 教授 [修士](#) [博士後期](#)

メディア教育／情報教育

特にタブレット端末環境、デジタル教材などの活用、情報教
育におけるカリキュラム、情報モラル、プログラミング教育に
関する内容など。



中谷 多哉子 教授 [修士](#)

ソフトウェア工学／要求工学

要求獲得技術、要求管理、UML等のモデル化技術と活
用、技術者教育、ソフトウェア品質向上、プロジェクト管理、
知見の再利用(パターン技術)。



仁科 エミ 教授 [修士](#) [博士後期](#)

情報環境学

ハイパーソニック・エフェクトをはじめ音響映像メディア情報
が人間に及ぼす生理・心理的影響の研究など。



広瀬 洋子 特任教授 [修士](#)

メディア教育／社会人類学

障害者支援、ユニバーサルデザイン、社会人類学的見地
から情報学を探究。

専任教員一覧(専門分野・指導可能なテーマ) ※ **博士後期** の表示がない教員は博士後期課程の主研究指導教員として選ぶことはできません。



伏見 清香 教授 **修士** **博士後期**

デザイン学／情報・環境デザイン

人と情報をつなぐデザインの研究、社会に発信するデザイン制作やその検証など。



森本 容介 教授 **修士** **博士後期**

教育工学

eラーニングシステム、eラーニングコンテンツ、World Wide Webに関連したテーマなど。



柳沼 良知 教授 **修士** **博士後期**

情報工学／マルチメディア情報処理

画像処理、映像処理、音声処理、テキスト処理、マルチメディアデータベース等について工学的に扱う。例えば、小説をコンピュータで分析する、放送大学の講義映像をコンピュータに理解させるなど。



山田 恒夫 教授 **修士** **博士後期**

情報学／教育工学／学習心理学

情報と人間／教育との関わりを広く研究しています。例えば、学習・学術コンテンツの開発・流通・電子出版、情報教育・第2言語教育・オープン教育・ボランティア活動におけるICT利用、サイバーボランティア、学習解析や電子学修証明など教育 DX のためのデジタルエコシステム。



秋光 淳生 准教授 **修士**

数理工学

データ分析、数理モデルなど、またこれらに関連のあるテーマ。



辻 靖彦 准教授 **修士**

教育工学

学習システム、ICT活用教育、音楽教育に関連したテーマ。



葉田 善章 准教授 **修士** **博士後期**

情報工学／教育工学

コンピュータやネットワークなど、情報工学の知見を応用したシステム構築、e-Learning、学習システムといった教育工学に関連するテーマなど。



平岡 斉士 准教授 **修士**

教育工学

インストラクショナル・デザイン、ICTの教育利活用、教育科学、認知心理学など。



自然環境科学プログラム 修士課程

自然科学プログラム 博士後期課程

自然の探求を多面的・統合的に深め、人類の英知の蓄積と普及に貢献する。

自然科学を基盤に人類の未来を考え、環境問題をはじめ科学が関わる現代社会の諸課題にも取り組む。

修士課程

人材養成目的

科学・技術が自然環境や人間社会に大きな影響を与える現代において、科学的認識に基づいて問題を把握・理解し、その解決を指向する科学的実践と客観的評価の能力を身につけた人材の養成を目的とします。

求める学生像

- 科学を通じて自然と環境を理解することへの熱意、関心、好奇心を持つ人
- 自然科学のさまざまな分野において、理解を更に深め広めたい人
- 自然や科学の面白さ・豊かさを、社会に広め伝えてゆきたいと考える人
- 環境問題をはじめ社会の諸問題に関心を持ち、科学的にアプローチしてみたいと考える人

過去の修士論文のテーマ例

- 河川の水質汚濁改善に向けた生活排水改善への行動を促す仕組みの構築
- 測地線上の焦点とベクトル場
- 気温減率に見る地球温暖化の研究
- フィードバックがあるときのジャルジンスキー等式と拡張シラードエンジン

修了生からのメッセージ

私が修士全科に入学したのは、修士選科に入学して3年、単位も揃ってきたことから、研究に駒を進めて、大好きな恐竜の話を地域の子供たちに伝えたいと考えたことからでした。しかし入学時点ではどのような研究をするかはノーアイデアで、他の方々の高い志に触れて、安易に入学したことを後悔したほどでした。そんな中、大森先生からアドバイスをいただき、恐竜化石のDBを作成することにしました。DBやプログラミングならば本業との兼ね合いで前に進めそうな気がしたからです。結果、想定外に楽しい2年間を過ごすことができ、さらにリタイア後、自身が取り組むべきことも見えてきました。大森先生を始め関係者の皆様に大変感謝しております。

論文テーマ

「北部九州の恐竜化石産出状況まとめ」
—中生代の九州を生きた恐竜達—



大内 剛さん
2019年度修了

博士後期課程

人材養成目的

数学、物理学、化学、生物学、地球惑星科学、天文学及びそれらの学際領域における高度な自立的研究能力を有し、専門的かつ総合的な広い学識を実践に活用するとともに、現下の自然科学にまつわる諸問題を的確に発見し、その要因と背景を究明して問題状況の解決に取り組み、高度な指導力を発揮できる人材、及び当該領域において自立的・創造的に高度な研究を遂行することのできる人材の養成を目的とします。

求める学生像

自然科学に関わる研究施設、研究機関、企業の研究部門、自然環境に関わるNPO等において研究・企画・運営・管理等の業務に就き、さらに高度な研究能力とそれに基づく指導能力を獲得し、もってそれらの分野において施策を企画立案する力、組織を運営する力、連携する力を指導的に発揮しようという意思を強く持つ人、及び当該領域において自立的・創造的に高度な研究を遂行することを目指す人。

過去の修士論文のテーマ例

- 光角運動量によるランダウ準位分光
- Human ES/iPS 細胞から膵β細胞に分化誘導するための有用な遺伝子についての検証
- 軌道計算法から見た超短周期彗星発見の歴史

修了生からのメッセージ

平成の終わり頃から、ヒトの生活圏へ交通する里山の野生動物が害獣捕獲されることとなりました。捕獲タヌキの健康状態は芳しくなく、昭和の終わり頃の野良イヌのそれを彷彿とさせます。この里山を公表したく、課程へ入学しました。

「里山と里海」は耳障りのよい句です。が、実際はどうでしょうか。両域に存在する環境重金属を手掛かりに、里山の野生動物と里海のマガキを研究対象として、瀬戸内西部の生態系評価を試みました。

研究法メジャー分野では、毎年、プログラム報告会があります。研究進捗状況の発表に対し、先生方からの忌憚なき意見に、詰めのデータ不足を気づかれました。論文の構成段階では、加藤和弘先生が何度もscrap and buildに付き合ってください、感謝です。

研究法マイナー分野で、コミュニケーション学研究法を学びました。分野に未熟な学習者へもTheories of human communicationという最良の教材を用いて総論から教授してくださった大橋理枝先生へ、感謝申し上げます。

論文テーマ

Evaluation of the environmental heavy metals and their circulation
in the Hiroshima Regional Urban Area



新田 由美子さん
2021年度修了

2024年度 修士課程開設予定科目一覧

博士全志願者の方は「**修士課程開設科目**」をご覧ください。
修士課程開設科目は修士課程の学生のみ履修できます。

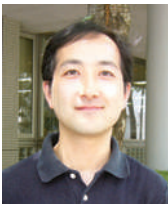
BSラジオ オンライン
※放送授業のテレビ科目に該当するが、インターネット配信のみで視聴

科目名	単位	メディア
現代生物科学('18)	2	
生物の種組成データの分析法('16)	2	
野外生物調査法('19)	2	
生態学における情報リテラシー('23)	2	
現代物理の展望('19)	2	
先端技術のための現代物理学('18)	2	
計算で紐解く物質科学・環境科学('18)	2	
宇宙、地球、そして人類('18)	2	

科目名	単位	メディア
地球を読み解く('19)	2	
数理論科学('21)	2	※
計算論('16)	2	
コンピューティング('19)	2	
食健康科学('21)	1	
環境工学('19)	2	
アカデミック・スキルズ('20)注	1	

注:修士全志願者のみ履修可能な科目

専任教員一覧(専門分野・指導可能なテーマ) ※**博士後期**の表示がない教員は博士後期課程の主研究指導教員として選ぶことはできません。



二河 成男 教授 **修士** **博士後期**

生命情報科学／遺伝学

DNAの塩基配列やタンパク質のアミノ酸配列から生命情報科学的手法を用いて、さまざまな生命現象を分子レベルから理解することを研究テーマとしている。特に進化、遺伝、共生といった生命現象や、遺伝子、ゲノムのデータ解析に興味を持っている。指導可能なテーマは上記に何らかの関連がある研究。



加藤 和弘 副学長／教授 **修士** **博士後期**

環境生態学／景観生態学

- 生物群集の種組成や種多様性を規定する要因に関する研究。博士後期課程の場合は、そのような研究の中でも都市や農村の鳥類または植物を対象とするもの。
- 都市や農村(そこにおける河川や池沼を含む)における生物の生息場所の保全や再生に関連する研究。博士後期課程の場合は、特に鳥類の生息場所を対象とするもの。



松井 哲男 特任教授 **修士**

理論物理学／原子核理論

これまでの研究で私が使ってきた理論物理学の方法(熱力学、流体力学、量子力学、統計力学、場の量子論、核物理学)が使える(使えそうな)さまざまな新しい問題を一緒に考えていければと思っています。



岸根 順一郎 教授 **修士** **博士後期**

理論物理学(凝縮系物性理論)

固体の電子的性質に関する基礎研究全般。スピントロニクスなど先端電子技術の基礎研究を含む。



橋本 健朗 教授 **修士** **博士後期**

化学／理論化学・計算化学・物理化学

理論と計算を用いた分子の構造、反応、機能の研究。環境や医療等の課題で活用される化学分析とその基盤となる分子理論、分子技術、クラスター科学、ナノ科学、環境分子科学、星間分子科学、これらに関連する実験の解析と予測。



安池 智一 教授 **修士** **博士後期**

化学／理論分子科学

原子分子およびクラスターの関与する現象一般の理論的研究。とくにこれらの物質における電子状態およびダイナミクスに興味があり、現在はナノ物質に生じるプラズモンと電子の集団運動、光と分子の強結合状態を用いた反応制御を中心に研究を行っている。指導可能なテーマは上記に広い意味で関連するもので、例えば物質の色や光機能など。実験を主眼とするテーマについても、結果の理論解析をサポートする形で指導が可能。



谷口 義明 特任教授 **修士** **博士後期**

宇宙物理学／銀河天文学／光学・赤外線天文学

テーマは以下の三つの大きな項目に分類できます:銀河の形成と進化、巨大ブラックホールの形成と進化、および宇宙大規模構造の形成と進化。それぞれ多波長の観測データに基づき、基礎的なことを理解しながら研究を進めていくよう配慮いたします。



大森 聡一 教授 **修士** **博士後期**

地球科学／ジオロジー／岩石学

地球はなぜ生命の星になったのでしょうか。岩石と大気・海洋の境界や、沈み込み帯で起る化学反応に注目して研究しています。野外調査、岩石・鉱物の観察と化学分析、熱力学計算、データ解析などが主な手法。指導可能なテーマは上記関連のテーマ。



隈部 正博 教授 **修士** **博士後期**

数学／数理論理学、特に帰納的関数論

数理論理学、数学基礎論、特に帰納的関数論。計算とは何か、さまざまな対象の計算可能性の可否、計算の複雑さ、相対的な計算可能性、またはその階層構造の解明。また数学基礎論の他分野への応用にも興味を持っている。例えば、情報科学や経済学分野において、論理学的観点から考察する。指導可能なテーマは上記分野。



石崎 克也 教授 **修士** **博士後期**

数学／関数論／関数方程式論

数学の分野では関数論・関数方程式論。具体的には、微分方程式や差分方程式などを含む関数方程式の研究、複素関数論。特に値分布理論の研究、複素力学系の研究、応用として数理モデルの解析。

よくある質問

修士全科生・博士全科生共通の質問

Q 放送大学教養学部で在籍中ですが大学院に入学できますか？

A 放送大学教養学部と放送大学大学院は同時期に並行して在学することができます。

Q 他の大学院から修士全科生・博士全科生へ転・編入学できますか？

A 本学大学院では、他大学院から転・編入学できる制度はありません。なお、**修士全科生**の方は本学大学院修士課程入学前に他の大学院で修得した単位は、修士全科生として合格した後に申請して、本学で審査した結果、教育上有益と認められる場合には10単位まで既修得単位の認定を受けることができます(臨床心理学プログラムを除く)。

Q 研究指導の担当教員を選ぶことはできますか？

A <修士全科生>

担当教員を自ら選ぶことはできません。出願時の研究計画書等を参考に、本学が最適と判断した教員に決定されます。研究テーマによっては、本学教員だけでなく、他大学の教員が研究指導を行うこともあります。

<博士全科生>

担当教員を自ら選ぶことはできません。主研究指導教員は、願書の研究テーマや研究計画等をもとに、入学試験面接試験等により領域適合性等を確認し、合格者に対して本学が最適と判断した専任教員を充てることとしています。副研究指導教員については、入学後のオリエンテーションでの主研究指導教員との面談後、本学が最適と判断した専任教員を充てることとしています。

Q 心身等に障がいがある場合、受験や修学のための配慮や支援は受けられますか？

A 本学では、心身等に障がいのある方で、特別な対応がないと学習に支障をきたす恐れがある場合、修学支援(本学では「修学上の特別措置」といいます)を行っています。
また、入学者選考における「受験上」の配慮(本学では「受験上の特別措置」といいます)も行っております。別冊の募集要項で申請方法等を確認してください。

修士全科生のみに関連する質問

Q 修士選科生・修士科目生として修得した単位は、後に修士全科生として入学した場合、修了要件の単位として認められますか？

A 修士全科生として入学した学生が、本学大学院修士課程において既に修得した単位があるときは、修了要件の範囲内で修了の要件となる単位(研究指導および面接授業を除く)として認定することができます。ただし、当該修得単位が既に本学教養学部の全科履修生の卒業要件となる単位として認定されたものであるときは、認められません。

Q 単位認定試験に不合格の場合、再試験はありますか？

A 次学期にも放送大学に学籍がある場合に限り、再試験を受けることができます(休学中を除く)。学籍がない場合は再試験を受けるための出願が必要です。この再試験で不合格だったり受験しなかった場合には、改めて次の学期に授業料を納入して科目登録をしなければ、受講および単位修得はできません。オンライン授業は単位認定試験がないため、再試験はありません。単位を修得できなかった場合、再度科目登録が必要です。

Q 放送大学大学院修士課程で、どんな資格が得られますか？

- A**
- ① 修士全科生を修了すると、修士(学術)の学位が得られます。
 - ② 臨床心理学プログラム(修士全科生)を修了し、1年以上の心理臨床実務経験を経て臨床心理士資格審査の受験資格を得ることができます(詳細は本学ウェブサイトをご覧ください)。
 - ③ 教員免許状の一種免許状をお持ちの現職教員の方等が、専修免許状を取得するために必要な単位の全部または一部を修得できます(詳細は本学の『教員免許状及び各種資格について』冊子(本学ウェブサイトにも掲載)を確認してください)。

学生が利用できるサービス

①システムWAKABA

放送大学では学生の修学をサポートするため、インターネットで教務情報システム「システムWAKABA」を提供しています。科目の登録申請、変更および、科目登録状況や成績などの照会も可能です。届出等の各種手続きを行うこともできます。学生の皆さんへのお知らせなども掲載しています。学生であれば誰でもアクセス可能です。

②研究指導等を受けるために使用する交通機関の学割

研究指導を受けるための旅費等は各人の負担となりますが、交通機関によっては学割の利用も可能です。

学生が利用できる施設

①放送大学附属図書館(大学本部敷地内)

1F／参考図書・印刷教材・映像音響資料室・情報検索室
2F／一般図書・雑誌・美術書・研究個室
3F／新着雑誌・小型本・展示コーナー・演習室・グループ視聴室・パソコン利用室・サイレントルーム
豊富な本部図書館の蔵書は自宅や学習センター・サテライトスペースへ取り寄せることもできます。多数の電子ブック・電子ジャーナルも利用できます。詳しくは、附属図書館ウェブサイト(<https://lib.ouj.ac.jp/>)をご覧ください。

②セミナーハウス(千葉県千葉市美浜区若葉2-11〈放送大学本部敷地内〉)

放送大学の学生、教職員および研究員等が、研修、演習実習、研究等を通じて交流を図り、教育研究の進展に寄与するために設けられた施設で、宿泊も可能です。

募集人数・前年度選考結果

■2023年度大学院修士全科生入学者選考結果

プログラム名	募集人員	出願者数	最終合格者数	最終合格倍率
生活健康科学	90名程度	86名	44名	1.95
人間発達科学	60名程度	115名	44名	2.61
臨床心理学	30名程度	257名	24名	10.71
社会経営科学	100名程度	63名	26名	2.42
人文学	90名程度	105名	40名	2.63
情報学	70名程度	56名	42名	1.33
自然環境科学	60名程度	37名	22名	1.68
計	500名	719名	242名	2.97

③国立美術館キャンパスメンバーズ制度

放送大学では、東京国立近代美術館、京都国立近代美術館、国立西洋美術館、国立国際美術館、国立新美術館、国立映画アーカイブの所蔵作品展無料観覧および特別展・共催展割引観覧等の特典が受けられる国立美術館キャンパスメンバーズ制度へ加入しています。

③学習センター・サテライトスペースの学習用図書室・視聴学習室

全都道府県57カ所にある学習センター・サテライトスペースが皆さんのキャンパスです。自習での利用や、図書室・視聴学習室の利用ができます。また、附属図書館から図書や論文コピーの取り寄せができます。視聴学習室では講義を見逃した場合や繰り返し学習したい時に、自分の都合に合わせて放送授業を再視聴できます。

④再視聴施設

本学学生および近隣市町村の住民の方に、放送大学の放送授業の機会を提供するために、地方公共団体等の協力を得て、全国45カ所(2023年4月1日現在)に設置されています。(※全科目が配架されているわけではありません。配架科目、利用手続き、開所時間、施設までの経路等に関するご質問は、各学習センターにお問い合わせください。)

■2023年度大学院博士全科生入学者選考結果

プログラム名	募集人員	出願者数	最終合格者数	最終合格倍率
生活健康科学	15名	16名	3名	5.33
人間科学		22名	4名	5.50
社会経営科学		13名	0名	—
人文学		13名	1名	13.00
情報学		16名	7名	2.29
自然科学		11名	2名	5.50
計	15名	91名	17名	5.35

修士全科生・博士全科生入学者選考第1次選考(筆記試験)過去問題の閲覧

本学ウェブサイト過去3年分の入学者選考第1次選考(筆記試験)過去問題を掲載しております。無料で閲覧できます。販売は行っておりません。

▶ 修士課程

<https://www.ouj.ac.jp/gakuin/about/past-question/>

▶ 博士後期課程

<https://www.ouj.ac.jp/doctor/about/past-question/>

出願期間

年1回。おおむね8月半ばから8月下旬までです。

学費

学生種	入学検定料	入学科	授業料	臨床心理実習費	研究指導料	学位取得までにかかる費用の目安 [最短修了の場合]
修士全科生[臨床心理学プログラム以外]	30,000円	48,000円	12,000円/単位	20,000円	96,000円/年	53.4万円(2年)
修士全科生[臨床心理学プログラムのみ]	30,000円	48,000円	12,000円/単位		96,000円/年	60.2万円(2年)
博士全科生	30,000円	48,000円	48,000円/単位		384,000円/年	147万円(3年)

※この他、研究指導等を受けるための旅費・宿泊費等は各人の負担となります。
※2024年度より授業料・研究指導料を改定いたします。詳細は本学ウェブサイト等をご確認ください。

奨学金

修士全科生、博士全科生ともに選考を受けた上で、日本学生支援機構の奨学金の貸与を受けることができます。
修士全科生は、北野生涯教育振興会の選考を受け、給付を受けることができます。

修士学位取得に向け先取り履修または興味のあるテーマの知識を深めたいなら

1科目から学べる

修士選科生・修士科目生

修士選科生は1年間、修士科目生は6カ月間在学し、1科目から履修できます。各プログラムに所属する必要はなく、開設する授業科目から興味のある科目を選んで学習できます。学べる科目は修士全科生と同じで、修士の学位取得に必要な単位を先取り履修することができます。(※研究指導な

ど一部履修できない科目もあります。)修士選科生・修士科目生として修得した単位は原則、修士全科生の修了要件単位として認められます。学習の進め方は、修士全科生と同様です。

▶ 入学時期と入学試験

入学時期は年2回、4月と10月です。満18歳以上であればどなたでも入学ができ、学力試験はありません。大学を卒業していなくても入学でき、大学院の講義を1科目から選んで履修していただくことができます。

● 出願期間 > 詳細は修士選科生・修士科目生用の『学生募集要項』を確認してください。

4月入学(第1学期)

11月下旬 ~ 翌年3月半ば頃

2月末までに出席し、指定期間内に学費納入を行うと、4/1までに印刷教材等が届き学習を開始できます。

10月入学(第2学期)

6月中旬 ~ 9月半ば頃

8月末までに出席し、指定期間内に学費納入を行うと、10/1までに印刷教材等が届き学習を開始できます。

● 入学科・授業料(2024年度)

学生種	入学科	授業料(6カ月間)
修士選科生	18,000 円	1科目(1単位) 12,000 円 1科目(2単位) 24,000 円
修士科目生	14,000 円	1科目(4単位) 48,000 円

授業料は1単位あたり12,000円(放送授業は教材費込み)。
学期(6カ月間)ごとに登録した科目数分を納入します。

※2024年度より授業料・研究指導料を改定いたします。詳細は本学ウェブサイト等をご確認ください。

▶ 大学院学生(修士課程)の約8割が短期間在学

修士選科生・修士科目生は、大学院学生(修士課程)の約8割を占めます。特定の授業に興味を持って入学するケースも多々あります。短期間で興味のある科目や資格取得に必要な科目だけ学べるので効率的です。

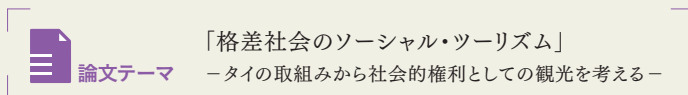
修士選科生・修士科目生として入学し、修士の学位取得に必要な放送授業科目・オンライン授業科目の単位を事前に修得した上で、修士全科生を受験し、入学後は修士論文の作成に集中される方もいらっしゃいます。

修士選科生・修士科目生として学習したのち、修士全科生として入学し、修士の学位を取得した学生の声



國弘 智美さん

2019年度
社会経営科学プログラム修了



「格差社会のソーシャル・ツーリズム」

ータイの取組みから社会的権利としての観光を考えるー

いつか修士課程で学びたい、を叶えて

私はタイに6年ほど滞在しJICAボランティアや企画調査員を経験しました。途中、タイの大学院で学ぶ準備をしましたが、諸事情により直前で入学を辞退し帰国したことがあります。いつか修士課程で学びたい、というその時の思いが心にくすぶり続け、出産半年後、育児をしながら放送大学大学院修士科目生として一科目ずつ単位を重ねるスタートを切りました。その後、修士全科生となり、研究の方向性に迷う日々が続きましたが、原田先生は私自身の本来の関心事を尊重し、論文としてのまとめ方について様々な可能性をご教示くださいました。タイと関わった時間を一度整理し、ここで論文にまとめられたことに大きな達成感を感じています。心から感謝申し上げます。

修士選科生・修士科目生の詳細は、「修士選科生・修士科目生募集要項セット」を資料請求してください。



放送大学

放送大学本部

〒261-8586

千葉県美浜区若葉 2-11

TEL 043-276-5111 (総合受付)

www.ouj.ac.jp